

解ヲ抱持シ從テ青木大使ニ對シ同大使ノ建言ヲ採擇スルコトヲ得サルヲ以テ本件ハ全然放棄セラ
ルヘキ旨回訓セリ然ルニ在米大使ハ然ラハ政府ニ於テハ此基本問題ヲ如何ニシテ解決セムトノ意
嚮ナリヤト反問シ來リタルニ對シ政府ハ此際基本問題ノ満足ナル解決ヲ見ルコトハ不可能ナルカ
故ニ日米協約ヲ結フノ時機ニアラストノ所見ヲ有ス尤モ差當リ本問題ヲ如何ニ處理スヘキヤノ問
題ニ付テハ既ニ林外務大臣ト在本邦米國大使「オブライエン」トノ間ニ移民制限ニ關シ交渉中ニ
シテ其方法ハ條約ノ形式ニ依ラス日本政府ニ於テ更ニ嚴重ナル自制的制限ヲ加フルコトスルノ
外ナシトノ趣旨ヲ以テ十一月二十九日在米大使ニ回訓セリ

第三節 紳士協約ノ成立

第一、移民渡航制限ニ關スル米國政府ノ提唱

一、青木大使ト國務長官「ルート」ノ會見

曩ニ一九〇七年九月二十八日在米青木大使大統領「ルーズヴェルト」ニ面謁ノ節大統領ハ晚香坡事
件ニ言及シ勞働者間ノ鬭爭ノ繼續スル間斯ノ如キ不幸ナル事件ヲ阻止スルコトハ困難ナリトシ日
米兩國國民ノ交通ハ教育アル階級ニノミ限局スルノ賢明ナルコトヲ熱心ニ説ク所アリタルカ其後十

月二十六日在米青木大使トノ會見ニ於テ「ルート」國務長官ハ一九〇七年米國移民法第二條ニ基
ク同年三月十四日附大統領行政命令ノ執行ニ依リ日本勞働者制限問題ノ解決ニ一段落ヲ告クルモ
ノト期待セラレタルニ拘ラス其後約半ケ年ニ互ル該行政命令實施ノ結果ハ其豫期ニ反シ却テ日本
勞働者ノ渡航増加シ來リタル爲太平洋ノ沿岸地方ニ於ケル勞働組合ハ大統領行政命令ハ到底日本
勞働者ノ入國ヲ防止シ得ルモノニアラス從テ更ニ嚴重ナル移民制限法ノ制定ヲ爲ササルヘカラス
ト高唱シ一方ニ於テ全國ニ於ケル勞働組合ニ向ツテ其協力ヲ促スト共ニ他方ニ於テ米國議會議員
ニ運動シタル結果排日議員ハ大統領及議會ニ於ケル領袖ニ其制定ノ必要ヲ強調スルニ到リ大統領
及國務長官ニ於テモ現實日本勞働者増加ノ事實アリテ轉航禁止令ノ實效ヲ伴ハサルコトヲ反證セ
ルニ顧ミ斷然右議員等ノ主張ヲ拒否スルコトヲ得サル事情トナリ從テ若シ帝國政府ニ於テ現狀ヲ
洞察シ自ラ進ンテ任意ニ更ニ有效ナル勞働者ノ渡航制限ヲ斷行シ米國政府ニ對シ日本勞働者制限
法制定ノ不必要ニシテ且不得策ナルコトヲ明確ナラシムルニ足ルヘキ理由ヲ供セラルルニアラサ
レハ大勢ノ赴ク所或ハ悲ムヘキ排斥法ノ成立ヲ見ルニ到ルヘキヲ虞ルトテ帝國政府ニ於テ更ニ嚴
重ナル勞働者制限ヲ勵行スルノ緊要ナルコトヲ懇談セリ在米青木大使ハ之ニ對シ帝國政府ハ誠意
ヲ以テ米國大陸行日本勞働者ヲ嚴重ニ制限スルノ方針ヲ實行シツツアルノミナラス墨國行勞働者

ニ對シテモ行政上ノ措置トシテ出來得ル限りノ制限ヲ加ヘ以テ大統領行政命令ノ目的ノ達成ニ充分協力シツツアルコトヲ説述シ帝國政府ニ於テ斯ノ如ク誠意ヲ以テ米國行勞働者ノ制限ヲ嚴ニ實行シツツアルニ拘ラス萬一米國議會ニ於テ日本人排斥法ヲ制定スルカ如キコトアラハ實ニ容易ナラサル事態ヲ醸成スヘキニ付米國政府ニ於テモ此事情ヲ充分了得セラレ議會ノ行動ヲ阻止スルニ盡力セラレムコト切望ニ堪ヘサル旨國務長官ニ懇談セリ

然ルニ之ニ對シ國務長官ハ米國政府ニ於テハ敢テ帝國政府ノ誠意ニ疑念ヲ挾マムトスルモノニアラサルモ不幸ニシテ統計（別表參照）ノ示ス事實ハ明カニ大統領行政命令ノ豫期ノ效果ヲ收ムルニ足ラサリシコトヲ立證スルモノナリ而シテ米國政府ノ調査ニ據レハ勞働者移住増加ノ重要原因ハ日本ニ存在スル移民會社ニ在ルヲ以テ帝國政府ニ於テ此移民會社ニ對シ嚴重ナル取締ヲ實行セラルルニアラスンハ到底直接間接ニ齊シク米國移住勞働者ノ増加スルヲ防止スルコトヲ得サルニ於テハ米國ニ於ケル勞働者ノ利益及一般社會福祉ノ保護上米國議會ノ進テ排斥ノ手段ヲ講セムトスルヲ制スルコト能ハサルニ到ルヘシトテ帝國政府ノ考慮ヲ求ムル所アリタリ

國務省ヨリ在米大使館ニ送付シ來レル日本人渡航者ニ關スル統計次ノ如シ

JAPANESE ARRIVALS IN CONTINENTAL UNITED STATES BY MONTHS

	Ending September 30, 1906		Ending September 30, 1907		Increase of Admissions
	Admissions	Rejections	Admissions	Rejections	
October	447	27	608	23	161
November	387	13	672	28	285
December	335	19	877	97	542
January	164	15	1,359	133	1,195
February	332	10	813	94	481
March	394	17	1,033	146	639
April	391	33	728	78	337
May	752	42	877	49	125
June	824	57	1,134	46	310
July	551	28	1,158	123	607
August	846	30	1,153	52	307
September	657	83	1,060	61	403
Total	6,080	374	11,472	935	5,392

Japanese (who were laborers as defined by Rule 21) admitted during six months ending September 30, 1907.

Port	Total Laborers Admitted	Previous Domicile			Passport dates of those not known to have U.S. Domicile.		
		In U. S.	Not in U. S.	Un- known	After April 1	Prior to April 1	Un- known
San Francisco	84	13	34	37	38	6	37
Seattle	558	169	236	153	96	—	293
Canada	1,208	95	1,113	—	265	315	533
Mexico	8	—	—	8	—	—	8
Total	1,858	277	1,383	198	389	321	871

二、墨國國境ヨリ潛入ノ日本労働者

右會見ハ國務長官ノ墨國旅行ヨリ歸京後早々行ハレタルモノナル處其際同長官ハ墨國國境ヨリ潛入スル日本労働者ニ言及シ墨國ニ渡航スル殆ト總テノ日本労働者ハ單ニ米國ニ入國セムカ爲墨國ニ渡航セルモノノ如シト極言シ日本政府ノ取締ヲ要求セリ

然ルニ會々一九〇六年以來當時ニ至ル迄墨國ニ渡航シタル日本労働者ハ「エスペランサス」炭鑛

坑夫「メキシカン・セントラル」鐵道工夫及「オハケニア」耕地農夫ニシテ何レモ關係移民取扱人ト雇主トノ間ニ相當ノ取極アリ日本政府ニ於テモ確實ト認メタルモノニ非サレハ許可セサリシカ一九〇七年春以來右労働者中墨國ニ渡航後豫定ノ場所ニ落付カス續々逃亡スルノ傾向ヲ生ストノ情報ヲ得タルヲ以テ帝國政府ニ於テハ在墨荒川公使ニ訓令シ事實ヲ調査セシメタル結果「オハケニア」耕地ニ於テハ設備待遇共ニ相當ニ備リ居リ同所ニ雇ハレタル農夫一千餘名ハ殆ト全部耕作ニ從事シ逃亡スルモノハ頗ル僅少ノ數ナルコト「エスペランサス」炭鑛ニ付テハ多少ノ逃亡者アリタルモ設備待遇稍備リ居ル爲既ニ同鑛山ニ從業シツツアル労働者數百名アリ只一九〇七年春渡航シタル約千名ノ内大部分ハ墨國上陸後炭鑛ニ到着前逃亡シタルコト及「メキシカン・セントラル」鐵道ニ付テハ待遇設備共ニ甚タ不完全ナルヲ以テ一九〇六年末以來渡航シタル二千餘名ノ労働者中鐵道工夫トシテ殘留スルモノ僅カニ二三百名ニシテ其他ハ逃亡シテ各所ニ散亂シタルコト明瞭トナレリ依テ政府ハ當分ノ中鐵道工夫ノ墨國渡航ヲ一切許可セサルコトニ方針ヲ定メ又炭坑夫ニ付テモ一九〇七年八月中三千名ノ渡航許可ヲ出願セルモノアリシモ曩ニ渡航者ノ大部分逃亡ノ實例モアリタルヲ以テ荒川公使ニ電報シ同炭鑛ニ於ケル坑夫需要ニ關スル實際ノ狀況ヲ考查セシメ其意見ヲ徵シタル後僅カニ三百名ヲ限り渡航許可ヲ與ヘ置キタルカ其後墨國渡航ヲ出願シタルモ

ノナシ右ノ如ク政府ニ於テハ常ニ注意ヲ怠ラス現行法令ノ範圍ニ於テ行政措置トシテ出來得ル限リ適當ト認ムル制限ヲ實行シ又其後モ之ヲ持續セルヲ以テ米國政府ニ臨機適當ノ説明ヲ與ヘンコトヲ十一月四日在米青木大使ニ訓令セリ

第二、紳士協約ノ協定ト其實效問題

一、米國政府ノ提案

其後米國政府ニ於テハ勞働者制限問題ニ關シ正式ニ日本政府ニ提議スルノ必要ヲ認メタルモノノ如ク在本邦米國大使「オブライエン」ニ電訓スルト共ニ一九〇七年十一月十五日大統領ハ在米青木大使ニ對シ白聖館來訪ヲ求メ太平洋沿岸諸州ニ於テハ極力日本人排斥法ノ制定ヲ要求シ來レルコトヲ告ゲ殊ニ移民局統計ハ之ヲ裏書セルコト又日本移民會社ノ存在カ原因ノ一ナルコトヲ指摘シ日本政府ニ於テ勞働者ノ移住ヲ阻止シ一定ノ資力ナク生活ノ爲勞働セサルヲ得スト認メラルル學生又ハ小商人ニ旅券發給ヲ拒絕センカ爲ニ嚴重ナル措置ヲ執ラルルノ必要アルコトヲ力説スル所アリタリ越エテ十一月十六日在本邦米國大使「オブライエン」ハ林外務大臣ニ對シ正式ニ書翰ヲ送り更ニ嚴重ナル勞働者渡航制限ノ勵行ヲ要請シ同二十六日附覺書ヲ以テ米國本土及布哇ニ渡航セムトスル日本及朝鮮勞働者ニ關シ次ノ措置ヲ實行セムコトヲ提議シ來レリ

(一) 日本政府ハ渡航者ニ對シ一定書式ノ旅券ヲ發給シ本人ノ識別ヲ容易ナラシムル爲其人相及職業ヲ記スコト

(二) 熟練及不熟練勞働者ノ米國本土行旅券ヲ發給セサル日本政府ノ既定政策ハ今後モ尙之ヲ持續スルト共ニ一切ノ旅券請求者ニ對シ米國到着後ニ於ケル生活狀態ヲ先以テ綿密ニ調査シ勞働者トナルヘキ虞アル者ニハ將來全然旅券發給ヲ拒絕スルコト

(三) 日本政府ハ勞働者又ハ前記ノ生活狀態ニ在ル者ニ對シテハ一ケ年ニ一千以上ノ布哇行旅券ヲ發給セサルコト

(四) 將來非勞働者旅券ノ發給ヲ受ケタル者ニシテ米國本土若クハ布哇ニ渡航後手工的勞働ニ從事シタル場合又勞働者トシテ米國行ニ非サル旅券ノ發給ヲ受ケタル者ニシテ米國領土内ニ潛入シタル場合ニ於テハ日本政府ハ其旅券ノ本人ニ與ヘタル權利ハ喪失セリト認ムヘキコト

(五) 日本政府ハ正當入米者ヲ保護セムカ爲在米日本領事官ヲシテ日本及朝鮮勞働者ノ登錄ヲ實行シ一九〇八年一月一日以後一ケ年間該勞働者ノ請求ニ依リ一定書式ノ登錄證明書(米國官憲ノ捺印裏書アルコトヲ必要トス)ヲ發給セシメ又日本若クハ朝鮮勞働者ノ認識ニ必要アル場合ニ於テ材料蒐集ノ爲米國官憲ト協力セシムルコト且一九〇八年一月一日ヨリ一ケ年經過後ニ於テ

ハ日本政府ハ前記證明書ノ所持ヲ以テ日本人又ハ朝鮮人カ旅券ニ違背セスシテ米國領土内ニ於テ勞働ニ從事スルノ唯一且必須ノ證據ト看做スヘキコト但シ布哇ニ於テハ毎年發給限定數タル一千ノ内ニ含マルル旅券ヲ受ケタル勞働者ハ同島到着後一ケ年間ハ旅券ヲ證明書ニ代フル必要ナキコト

(六) 日本政府ハ旅券及前記證明書ノ目的ヲ達スル爲メ米國政府ト協力シ適當ノ手段ニ依リ日本人及朝鮮人ニシテ移住ノ條件ニ背反シタル者ヲ關係汽船會社ヲシテ送還セシムルコト

二、帝國政府ノ回答

然ルニ右米國側提案中ニ帝國政府ニ於テ同意シ難キモノアリ殊ニ(四)乃至(六)ハ到底帝國政府ニ採リ實行困難ナル條件ナルヲ以テ其提案ヲ承認スルコトヲ得サリシモ日本ノ利益ト威嚴トニ合致スル方法ニヨリ米國政府ノ希望ニ副ハムカ爲メ帝國政府カ將ニ採ラントスル行政的措置ヲ十二月三十一日附覺書ヲ以テ林大臣ヨリ「オブライエン」大使ニ通告セリ其要旨次ノ如シ

(一) 日本政府ハ再渡航者及米國本土在留者ノ父母妻子ヲ除クノ外一切勞働者ニ對シ米國本土行旅券ノ發給ヲ爲ササルヘシ

(二) 右ノ除外例トシテ定住農夫 (settled agriculturists) ニ對シテハ旅券ヲ發給ス但シ詐欺的手段ニ

依ルセノヲ防ク爲相當ノ措置ヲ採ルヘシ

(三) 學生、商人、旅行者等ニ付テハ旅券發給前嚴重ナル調査ヲ爲シ渡米後勞働ニ從事スル虞アル者ニハ一切旅券ヲ發給セサル方針ニシテ之カ爲メ資力教育等ニ付一定標準ヲ設ケ之ヲ地方長官ニ訓達スヘシ

(四) 布哇ハ本問題ヨリ除外シ全然之ヲ別個トスルコトヲ提議スルト同時ニ帝國政府ハ當分ノ間試験的ニ再渡航者及同島在留者ノ父母妻子ヲ除クノ外一切勞働者ノ布哇行ヲ禁止スル意嚮ヲ有ス

(五) 帝國政府ハ米國ノ隣接國ニ渡航スル移民ニ對シ從來ノ批難ヲ有效ニ除却スルニ足ルト認メラルヘキ手段ヲ講セント欲ス

三、米國政府ノ補追提案

右通告ニ對シ米國大使ハ一九〇八年一月二十五日附公文ヲ以テ林大臣ニ對シ米國側提案(四)乃至

(六)ノ實行ヲ再度要求スルト共ニ補追方法トシテ次ノ諸點ノ採用ヲ要求セリ

(一) 旅券ハ其偽造及他人ノ轉用ヲ防止スル爲メ嚴重取締ヲ要スルコト

(二) 既ニ米國ニ居住セル勞働者又ハ其ノ兩親妻子ニ對シ旅券下附ニ方リ細心ノ注意ヲ加ヘ濫發ノ

弊ナカラシムルコト

- (三) 定住農夫トハ小農資本家ニシテ契約ニ依リ給料ヲ支給セラルル農業労働者ニ非サルモノト了解セララルルニ依リ此標準ニ從ヒ右ノ經濟上ノ地位ヲ有スル者ニ對シテノミ旅券ヲ發給スヘキコト又農業者ニシテ右ノ經濟上ノ地位ヲ有スト云フモ現實ニ土地ノ上ニ權利ヲ有スルニ非サレハ米國契約労働法違反トナルコト多カルヘキコト

- (四) 労働者ニ關シテハ日本政府ノ提議ト米國政府ノソレト合致セシムルノ要アルコト

- (五) 布哇行労働者ニ下附スヘキ旅券ノ數ハ米國大統領ノ同意アルニ非サレハ毎年一千ニ限ルコト

四、帝國政府ノ回答

帝國政府ニ於テハ米國提案(四)乃至(六)及追補方法案(五)ニ對シテハ同意スルコト困難ナリト認メタルモ更ニ考究ヲ重ネタル結果二月十八日附公文附屬覺書ヲ以テ林大臣ヨリ米國大使ニ次ノ實行方法ヲ回答セリ

- (一) 米國提案(四)ニ關聯シ今後旅券ニ對シ詐欺手段ヲ爲シタル者及其兩親妻及家族ニ對シ旅券發給ヲ拒絶スルコトトスヘシ

- (二) 米國提案(五)ニ關聯シ今後一種ノ登錄制度ヲ實施シ在米日本人ヲシテ其管轄領事官ニ對シ届出ヲ爲サシムヘシ尤モ右登錄ノ欠缺ハ住居權剝奪ノ理由トナラサルコト

- (三) 米國補追方法案(一)及(二)ニ關シテハ日本ニ於テ相當取締ヲ勵行シツツアリ

- (四) 米國補追方法案(三) 定住農夫ノ意義ニ關シテハ右米國側ノ解釋ト帝國政府ノ解釋トハ殆ト相一致ス現ニ右ニ從ヒ旅券發給ニ關シ取締ヲ爲セリ

- (五) 米國補追方法案(四)ノ労働者ノ定義ニ關シテハ帝國政府ハ一九〇七年四月八日公布大統領令中ニ與ヘラレタル定義ニ據ルコトヲ辭セサルヘシ但シ今後大統領令ニ定ムル定義ニ變更アルモ之ニ遵依セムトスル次第ニアラス

五、其後ノ交渉

其後米國大使ハ二月二十一日附公文ヲ以テ林大臣ニ對シ

- (一) 移民ノ往來ヲ明確ニ知悉センカ爲日米兩國ノ港ニ到リ又ハ其港ヨリ出發スル日本人ノ數ヲ毎月一日以後成ル可ク速ニ兩國相互間ニ交換スルコト

- (二) 布哇ニ關シテハ將來同島ニ於テ日本労働者ノ需要アル場合ニ於テハ日本政府ハ米國政府ト協力シ同島ノ實情ヲ調査シ労働者ノ渡航ハ其必要ノ限度ニ止ムヘキコト

ヲ提議シ日本政府ハ二月二十三日覺書ヲ以テ本件交渉ノ目的トナレル種類ノ日本人ノ往來ニ關スル統計ノ交換ヲ爲スコト及布哇行勞働者制限ニ對シ將來解禁ヲ爲スノ適切ナル場合豫メ米國官憲ノ手ヲ經テ同島ノ勞働狀態ヲ調査スヘシトノ米國ノ提案ニ同意スル旨米國大使ニ回答セリ

尙三月十二日米國大使ハ林大臣ニ對シ墨國又ハ加奈陀ニ渡航シタル日本人ニシテ後ニ至リ米國ニ潛入シタル者ハ日本汽船會社ノ手ヲ經テ該隣接諸國ニ送還スルノ手段ヲ採ラシムルコトヲ要請シタルモ日本政府ニ於テハ右ハ前記米國提案(六)ト同様實行困難ナル所ナルニヨリ米國ノ要請ヲ拒絕セリ

右紳士協約ニ基ク行政措置實施ノ爲帝國政府ハ一九〇八年(明治四十一年)十一月十六日各地方長官及在外公館ニ一般内訓ヲ發シ渡米旅券發給許可ノ審査ヲ外務省ノ手ニ收メ以テ制限實行ノ統一ヲ計レリ

尙大正九年十一月通商局ニ於テ印刷シタル紳士協約中ニハ英文ハ附屬第十七號ノ通十一通ノ公文ヲ收録セルモ譯文ハ其ノ中左記ノ七通ヲ收録セリ依テ茲ニ右七通ノ譯文(原譯文ノ儘)ヲ掲クヘシ

紳士協約(譯文)

目次

第一號 在本邦米國大使「オブライエン」氏ヨリ林外務大臣宛明治四十年十一月十六日附書翰

第二號 在本邦米國大使「オブライエン」氏ヨリ林外務大臣宛明治四十年十一月二十六日附書翰並覺書

第三號 明治四十年十二月三十日林外務大臣ヨリ在本邦米國大使「オブライエン」氏ニ手交セル「プロメモリア」

第四號 林外務大臣ヨリ在本邦米國大使「オブライエン」氏宛明治四十年十二月三十一日附書翰並覺書

第五號 在本邦米國大使「オブライエン」氏ヨリ林外務大臣宛明治四十一年一月二十五日附書翰

第六號 在本邦米國大使「オブライエン」氏ヨリ林外務大臣宛明治四十一年一月二十五

日附書翰並附屬書

第七號 林外務大臣ヨリ在本邦米國大使「オブライエン」氏宛明治四十一年二月十八日

附書翰並覺書

第一號 在本邦米國大使「テイ・ジェー・オブライエン」氏ヨリ林外務大

臣ニ致セル明治四十年十一月十六日附來翰

以書束致啓上候陳者日本人ノ合衆國移住ニ關スル難問題ニ付公然トナク之ヲ論スルコト既ニ兩度
ニ及ヒ候處去ル十四日ノ最後ノ會見ニ於テハ本使ノ是迄口頭ニテ申述ヘタル事ノ大要ヲ錄シ之ニ
刻下ノ情勢上宜シク更ニ考量ヲ加フヘシト認メラルル事項ヲ書添ヘテ閣下ニ呈スルノ許諾ヲ得タ
ルコトト存シ候合衆國一都市ノ有形上無形上共ニ最モ悲惨ナル境遇ニ陷リタルモノニ於テ學校ニ
關シ同等ノ權利ヲ僅少ノ日本國少年ニ與フルコトヲ拒ミタリトテ貴政府ニ於テ之ヲ一ノ被害ト認
メラレタルハ又自然ノ勢ニ出テタリト雖モ或ハ後日ニ起ルヘキ事ヲ慮カラレサルノ致ス所ナラン
ト察シ敢テ之ヲ遺憾トスル旨ヲ陳述致候本使ハ茲ニ本件ニ關シ純然タル權利上ノ問題ヲ提起セン
トスル譯ニハ無之候但我政府カ早速慰勸ニ本件ヲ處理スルニ努メタルハ顧ミテ一考ヲ加フヘキ事
ニシテ是レ貴政府ニ於テ申立ラルル苦情ノ原因ノ正當ナルモノハ悉ク我政府ニ於テ之ヲ忽諸ニ付
スヘカラストナスノ一意ニ外ナラス候事ノ是非ニ就テ言フトキハ獨リ合衆國ノミナラス自餘ノ諸
國ニ於テモ亦就學上ノ事ヲ整理スルノ權能ハ之ヲ地方官ニ一任シ其ノ認メテ以テ無上ノ效果ヲ收
ムルニ足ラント爲セル方法ニ由ルヲ極メテ普通トスルコトヲ茲ニ附言致度候本使ハ敢テ權力問題

ニ涉リテ論スルニハ無之候得共中央政府ハ此ノ如キ事ニ任スルニ不適當ナレハ歸スル所其ノ權能ハ依然トシテ地方官憲ノ手裡ニ留ルヘシトノ事ヲ一言セサルヘカラス候手近ナル一例ハ今日貴政府ノ所領又ハ所轄ニ歸セル臺灣ニ於テモ之アル様承居候該島民ノ大多數ハ清國人ニシテ日本ノ學生ハ清國人ノ子弟ト共ニ公立學校ニ出席スルノ權ヲ與ヘラレスシテ餘儀ナク別ノ教場ヲ用フルカ然ラサレハ清國人ノ放課後同一ノ教場ヲ用フルコトニ相成居ル趣ニ有之候既ニ御會談致シタル通リ獨リ都會ニ雜居スル異人種ノ間ノミナラス同國人ノ中ト雖モ猶且平和ヲ攪亂シ時トシテハ暴行ニ及フノ傾向アレハ此等ノ不幸ナル出來事ハ豫メ之ヲ期スヘカラサルモノニ有之候故ニ若シ當局者ニシテ公平ノ心ヲ以テ速ニ變ニ處セハ之ヨリ生スル損害ト疾苦トハ社會自然ノ趨勢ニ發シタルモノトシテ之ヲ寬假セラルヘカラス候今ヤ本使ハ此ノ如キ明白ナル事項ニ御注意ヲ煩ハシタルノ罪ヲ謝シ更ニ轉シテ本件中ノ遙ニ重大ニシテ困難ナル事項ニ論及スヘク候

我國ノ勞働者ハ殊ニ近年團結シテ其ノ權利ト認ムル所ノモノヲ防衛スルニ至リタルカ其ノ最モ顯著ナルモノハ力苟モ之ヲ能クスル處ニハ更ニ勞働者ノ入國ヲ防遏セントスルノ事ニ有之候此ノ輩ノ運動ハ時トシテ國內全般ニ涉リ時トシテハ地方ニ止ルモ要スルニ皆同一ノ目的ヲ達セントスルニアリテ自ラ (一) 勞働時間ヲ制限セントスルコト (二) 賃銀ノ割合ヲ一定セントスルコト (三) 今日

以上ノ競争ヲ防止セントスルコトノ三箇條ニ歸シ候右ノ趨勢ハ自然ノ必要ニ迫ラレテ生シタルモノニシテ既ニ法律ノ認ムル所ト相成治國ノ術ニ明カナル者ハ此等ノ狀態ニ注意シ此ノ外又所謂供給需要ノ原則ニモ注意致スヘク候

政府タルモノ能ク明ニ右理ノ存スル所ヲ認メ之ニ從テ宜シキヲ制スルトキハ暴行、疾苦及同胞ノ爭ヲ絶ツニ庶カルヘク候

前來説ク所ハ獨リ合衆國ノミナラス又歐洲一部ノ國々ニモ適用セラルヘキモノニシテ實ハ其ノ源ヲ歐洲ニ發セシモノニ有之候貴國若シ幸ニ斯ル境遇ニ立ツコトヲ免カレタリトセハ是レ日本國ノ勞力市場ニハ從來外國勞働者カ出テテ相俱ニ用ヒラレンコトヲ望ムカ如キ誘惑ノ存セサルニ基因スルモノナルヘク候

主權國タルモノハ何レモ皆種々ノ情勢ヨリ生シ來ル勞力ノ需要ヲ幸ニシテ自國民ノ爲ニ保留スヘキ顯然タル權利ヲ有スルニ相違無之候

貴我兩國ノ間ニ一點疑ノ存セサランカ爲又雙方各勞働ノ狀態ヲ節制スルノ權利ヲ保持センカ爲千八百九十四年十一月二十二日ノ日米條約第二條中通商航海ニ關スル相互ノ自由ヲ規定シタル後左ノ如ク之ヲ結ヒ居候

但本條及前條ノ規定ハ兩締盟國ノ各方ニ於テ商業、勞働者ノ移住、警察及公安ニ關シ現ニ行ハレ又將來制定セラルヘキ法律勅令規則ニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

過去數年間我國殊ニ太平洋沿岸諸州ニ於ケル勞働組合ハ日本移民ノ多數渡來スルヲ視テ追々不安ノ念ヲ懷クニ至リシモ一ハ友誼上貴政府ノ歡心ヲ得ント欲スルカ爲又一ハ繁盛ナル我國ニ於テ體面アル民庶ニ成ル可ク廣ク居住ノ權ヲ與ヘンカ爲我政府ノ依然守舊主義ヲ持シタルヨリ右條約中ニ保留シタル權利ヲ施行スルコトヲ躊躇シタル次第ニ有之候

昨年ノ桑港ニ於ケル事變ハ速ニ勞働組合ノ乘シテ以テ將來ノ競争ヲ絶タンコトヲ要ムルノ好機トセラレ候

閣下ハ我政府カ右方針ニ出テントスルノ權利ヲ駁セラルルニ非サルモ貴政府自ラ方法ヲ設ケテ制限ヲ加フルノ計ニ出テンコトヲ欲セラレ縱ヒ渡來スルモ決シテ勞働社會ノ狀態ヲ攪亂スルノ虞ナキカ如キ目的及事情ヲ具スル特別ノ移民ハ例外ヲ以テ論セントセラレ候

或ハ日本移民ノ増加ニ對スル反對ハ人種ノ異同ニ基因スト云フ者アリ固ヨリ其理由ハ一ニシテ足ラサルモ鄙見ヲ以テスレハ是レ一ハ我條約カ右制限ノ權利ヲ施行スルコトヲ許シ又一ハ日本勞働者ノ入國ハ賃銀ノ割合ヲ攪亂スルノ特性ヲ有シ此ノ特性ハ現在勞働者ノ地位ヲ大ニ墮スモノナル

ニアリト存候同様ノ反對ハ我條約上ノ權利（日本國ニ對スルト）同一ナル他國ノ移民ニ對シテモ必可有之候

本件ニ關スル問題ハ本年ノ初期閣下ト前任大使ノ間ニ攻究セラレタル所ニシテ去二月二十三日ノ會議ノ節閣下ハ前任大使ニ向ヒ帝國政府ニ於テハ定住ノ農業者以外日本國勞働者ノ熟練ヲ要スル者モ然ラサル者モ合衆國本土向キニハ一切旅券ヲ下附セサル當時現行ノ法令ヲ廢止シ若ハ變更スルノ意ナキヲ陳ヘラレ右定住ノ農業者トハ其ノ農作物ノ利ヲ分チ享クル農夫ヲ謂フモノニシテ此ノ輩ニ至テハ過去十年間ニ移住シタル者ノ數五百名ヲ出テストノ事ニ有之候

當時貴國政府ハ前記ノ法令ヲ勵行シ之ニ加フルニ勞働者ノ旅券ニハ總テ其ノ目的地ヲ記入スルノ慣例ヲ繼續スルコトヲ以テセハ合衆國ノ新法令ヲシテ満足ノ效果ヲ收メシメ以テ右以上ノ處置ヲ施スノ必要ヲ生スルコトヲ免ルヘシト信セラレ候處不幸ニシテ結果ハ貴我兩政府ノ正當ニ豫期スル所ニ反シタル次第ニ候

太平洋岸ニ來ル日本人ノ多數ハ大舉移住ト稱スヘキモノニシテ條約ノ目的トスル通常又ハ偶然ノ旅行及居住トハ全ク其ノ趣ヲ異ニシ其ノ日本人ノ賃銀及生活費ノ程度低キカ爲ニ之ヲシテ米國勞働者ヲ排シテ之ニ代ルコトヲ得シムルヲ以テ太平洋岸ノ勞働者ニ害アリトノ事ハ我政府ノ所見ニ

有之候

日本國ニ於テハ外國勞働者ノ競争ニ對シテ自國ノ勞働者ヲ保護スルノ權利ヲ認メラルルノミナラス近ク其ノ排除ヲ有效ナラシムル爲大ニ盡サル所アリタルヲ以テ其ノ將來ノ意志ニ就キ一點ノ疑ヲ留メシメサルコトハ本使ノ茲ニ示スヲ要セサル所ニ候是レ清國人ノ拒絕竝ニ特別ノ許可ナクシテ外國勞働者ノ内地ニ入ルコトヲ禁スル法令ノ制定ヲ指スモノニ有之候又我政府ノ見ル所ニテハ一部ノ日本國會社ノ企圖シタル移民業ハ率ネ皆千九百七年二月二十日ノ我移民法ニ違反シタルモノト存候右移民法ハ何レノ國ニモ適用セラルヘキモノニシテ需ニ應シ又ハ幫助ヲ得テ移住スルコトヲ禁シ居候果シテ右違反ニ該當スルヤ否ヲ成規ノ如ク立證スルコトハ容易ナラス候ヘトモ之ニ違反シ居ルコトハ事實ト信セラレ候ニ付若シ此ノ慣習ニシテ改メラレスンハ國會ノ議論ニ上ルニ至ルヘク候

更ニ承ル所ニ據レハ合衆國ニ渡來スル日本人ノ數ハ減スルコトナクシテ大ニ増加シ前年中ノ六千四百五十四人ニ對シ過去十二箇月間ニ渡來シタルモノ一萬二千四百七人ニ達シ合衆國本土ニ入ルノ旅券ヲ攜帶スル千八百五十八人ノ日本勞働者ハ去九月三十日ニ先ツ六箇月間ニ於テ合衆國ニ入ルヲ許サレタレハ渡來勞働者ノ數モ亦増加シタリトノ事ニ有之候學生ト稱スル多數ノ者上陸シ踵

ヲ旋サスシテ或ハ熟練ヲ要スル勞働者トナリ或ハ之ヲ要セサル勞働者トナルモ有之其ノ所謂學生及無資力小商人ナルモノノ勞働者トナルハ殆ト必然ノ勢ニ出ツル所ト知ラレ候

又聞ク所ニ據レハ合衆國內地通過ノ爲ニ入ルヲ許サレタル七百九十人ノ勞働者中六百二十一人ハ其ノ旅行ヲ繼續セスシテ合衆國內ニ留リ又二百十四人ノ日本勞働者ハ權利ナクシテ入國ヲ企テ二萬弗以上ノ費用ヲ掛テ放逐セラレ候是レ皆貴政府カ自ラ任シテ加ヘラレタル制限方法ノ其ノ目的ヲ達スルニ全ク不十分ナルヲ證明スト主張スルモノニ有之候

別報ニ據レハ七月一日ヨリ本月(十一月)一日ニ至ル四箇月間ニ於テ約千五百五十人ノ勞働者ハ「シアトル」ノ一市ニ上陸シタルカ此輩ハ長崎神戸及橫濱ヨリ乗船シタルモノナリトノ事ニ有之候此ノ中眞ニ學校ニ入ラントシタルモノモ有之又右全渡來者ノ種類ハ概ネ皆布哇行ノモノニ比シテ優レリト雖モ前述ノ如ク大半ハ元來勞働者ナルカ又ハ着後速ニ勞働者トナリシ者ニシテ之ト同數ノ合衆國人民及居住者ヲ排除シタル次第ニ候

金融界ノ紊亂ハ刻下到ル處ニ存スト雖モ殊ニ合衆國ヲ甚シトスルコトハ閣下モ顧ミラレサルニアラス候過去數年間勞力ノ需要ハ甚タ多ク且米國物產ハ賣捌迅速ニシテ其ノ產出額ハ莫大ナリシモ之ヲ既往ノ經驗ニ徵スルニ形勢此ノ如クナルトキハ日ナラスシテ製造品ノ需要ハ内外共ニ大ニ減

シテ不景氣ヲ來シ又隨テ速ニ労働者(熟練ヲ要スル者ト然ラサル者トヲ問ハス)ノ需要ヲ減スルニ至ルヲ常トシ候

右ノ傾向ハ未タ其ノ最モ甚シキ結果ヲ生スルニ至ラス候ヘトモ久シカラスシテ勞力ノ需要ハ大ニ減少シ多數ノ労働者ハ其業ヲ失フニ至ルヘク候

右不景氣ノ時期ハ其ノ長短豫メ測リ難ク候ニ付此ノ容易ナラサル難局ニ當ル地方カ外國労働者ノ渡米ニ累ハサルルコトナク又前述ノ如ク減少ノ傾向アル労働事業ハ之ヲ我國ノ既住者ノ爲ニ保留スルコト我カ最モ急務トスヘキ所ニ有之候

前陳ノ次第ハ閣下ニ於テモ自然御同感ナルヘク我政府ノ容易ナラサル事態トシテ關心スル所ナルコトヲ御了知相成度候本使カ日本國移民ノ此ノ上ノ渡航ニ關シ早キニ及ヒテ十分ノ救済ヲ加フルノ必要ヲ明示セサルヘカラサルハ畢竟之カ爲ニテ候

前陳ノ二月二十三日前任大使ト御會見ノ節閣下ハ當時行ハレタル處置カ満足ナル結果ヲ生スヘシト思惟セラレ論シテ效力ノ十分ナルヘキコトニ及ハレ

若シ之ニ反シ實際ノ結果所信ニ違フニ至ラハ帝國政府ハ進テ新條約問題ヲ合衆國ト攻究スルノ覺悟ナリ

ト申添ラレ候去一月三十一日我前任者ト長時間ノ御會談アリタルコトハ記録ニ留リ居候「ライト」氏ハ最モ有效ナル救済方法ハ兩國互ニ労働者ノ移住ヲ禁スルコトニ同意スルノ條約ヲ締結スルニアリト主張致シ居候

閣下ハ右ノ意見ヲ排斥セラレシニハアラサルモ當時行ハレシ方策ヲ更ニ試ミラレ其ノ方策ノ失敗ニ終リタルトキハ懸案中ノ一層有效ナル處置ニ出テントセラレ候

我政府ノ見ル所ニテハ爾後満足スヘキ救済ノ實舉ラス更ニ有效ナル救治策ノ施サルルナクムハ國會ニ於テ行動スル所アルハ期シテ待ツヘク候

閣下ハ前記ノ會議ニ於テ「ライト」氏ニ又降テ其ノ後ニ於テハ本使ニ指示セラルルニ如何ナル事情ノ下ニテモ米國ヨリ労働者ノ日本ニ移住スルコトアリトセハ其ノ數ハ論スルニ足ラサルヘキカ故ニ條約ハ相互的ノモノトナラサルヘキコトヲ以テセラレ其ノ儀ハ一應尤ニ候得共其ノ趣ヲ異ニスル國際條約中其ノ諸點ニ就キ相互的利益ヲ全ク對等ナラシムルモノノ稀ナルコトモ亦事實ニ有之而モ其ノ適例ハ貴我兩國間ノ現行條約ヲ查竅セハ判然タルヘク候右條約中閣下ハ我政府カ貴國ノ利トナルヘキ權利又ハ特權及既ニ他國ニ許與シ又ハ許與スヘキ權利又ハ特權ヲ一モ保留セサラント欲スル誠意ヲ認メラレテ満足ニ思召サルヘク候且右條約ノ實施ニ由リ貴國ノ方遙ニ大ナル

利益ヲ得ラルヘキハ歴然タル儀ニ有之候各階級ニ屬スル多數ノ貴國人ハ既ニ合衆國ニ居住シテ大ニ其ノ益ヲ得今後トテモ益々其ノ數ヲ加フルコト可有之但我政府ニ於テハ自國現在ノ人口ノ爲ニ顧慮シ當分ノ間從來ヨリモ一層移民ヲ拒絶スルノ方針ヲ取ランコトヲ求ムル次第ニ有之候

兩親交國ノ間ニ於テ其ノ一國カ經濟上ノ狀態ニ迫ラレ自國ノ領土ニ他ノ一國ノ勞働者ノ來ルヲ禁センコトヲ求ムルヲ以テ不條理又ハ不當ナリト爲スカ如キ說ハ本使ノ取ラサル所ニ有之而モ我政府ハ之ヲ求メタルモノニシテ當分ノ所我國ニ於ケル此種ノ人口ハ十分多數ナルヲ以テ少クモ一定ノ期間ナリトモ條約ヲ締結シテ勞働者ノ更ニ入國スルヲ禁スル程有效ニシテ満足ナル處置ハ可無之候

閣下ニシテ若シ同一ノ制限他國人ニ加ヘラレスト御提議相成候ニ於テハ本使ハ他國ト締結セル條約ニハ制限ノ權利ヲ保留セサリシコト竝ニ締結ノ當時制限ノ必要ヲ感セサリシコトヲ可申陳候乍去本年二月二十二日國會制定ノ法律ニ由リ本件ノ全體ニ涉リテ調査ヲ遂クヘキ委員ノ設置セラレ候儀ハ閣下モ御承知ノ所ニシテ其ノ報告ハ必ス不日提出セラレテ國會ノ適宜ト認ムル審議及終局措置ノ基礎ト相成ルヘク候

本件ハ兩國ノ最モ重キヲ置クヘキ所ナレハ所論ノ甚タ長キニ互リタルコトハ幸ニ御海恕相成度候

今ヤ時期又切迫シ貴我ニ於テ明白ナル前兆ニ注意セサルニ於テハ現行條約上ノ權利ニ由リ多分法律ヲ制定スルニ至ルヘク候此際相當ナル友好的妥協ヲ遂ケ以テ未定ニシテ不満足ナル現狀ヲ顧慮スルコトヲ免ルルニ至ラハ貴國ノ爲實ニ莫大ノ利益タルコトヲ閣下ニ告クルモ必ス御海容可相成ト存候右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

第二號 在本邦米國大使「テイ・ジー・オブライエン」氏ヨリ林外務

大臣ニ致セル明治四十年十一月二十六日附來翰竝覺書

以書束致啓上候陳者日本國民合衆國ヘ移住ノ件ニ關シ近頃我政府ヨリ來信ニ接シ候處閣下ニ於テモ國務長官ノ表明シタル我政府ノ正確ナル態度ヲ御承知相成度儀ト被存候ニ付同長官ノ意見ヲ覺書ニ作り茲ニ之ヲ致封入候此段申進旁重テ敬意ヲ表シ候 敬具

覺 書

我政府カ日本ニ於テ移民ノ渡航ニ關スル有效ナル取締方ヲ希望スルハ毫モ日本人排斥ノ感情ヲ表示スルニ非スシテ單ニ米國勞働者ノ大部分カ破壊的勞働競爭ト思惟スルヨリ彼等ノ間ニ起生スヘキ結果ヲ豫防シ之ニ依テ以テ日米兩國民ノ間ニ於ケル友好的關係ニ對スル軋轢ト傷害ヲ豫防センコトヲ希望スルニ止マルモノナレハ畢竟本件ハ純然タル經濟問題タルニ過キサルナリ而シテ我提

案ニ依テ以テ解決セラルヘキヲ期待セル此難問題ハ日本ノ同盟國ナル英國カ哥倫比亞、「ニュージ
ーランド」及濠洲ノ諸植民地ニ於テ實驗シツツアル所ノモノト全然同一ニシテ而カモ右諸植民地
ノ人民ハ我太平洋沿岸諸州ノ人民ト全ク同一ノ情態ニ在ルモノナリ元來日本ノ方針ハ其ノ移民ヲ
米國ヨリハ寧ロ亞細亞大陸ノ方面ニ轉セシメントスルニアルコトハ我政府ノ當初ヨリ了知スル所
ニシテ日米兩國ハ其ノ理由トスル所相異ルモ當初ヨリ相同シキ結果ニ到達センコトヲ希望シタル
ヲ以テ本件ニ關シ爰ニ一層隔意ナク我意見ヲ開陳スルニ至レリ

我政府ハ日本國ハ現下移民ノ件ヲ以テ更ニ條約上ノ事ト爲スニ反對ナルヲ了知シ從來施シタル行
政措置ノ全ク失敗シタルニ沮喪スルモ尙ホ日本國政府ノ態度ヲ顧ミ且本件ニ關シテハ其ノ方針上
貴我實際相異ノ點ナキヲ信スルヲ以テ日本國ヲ慫慂スルニ腹藏ナキ好意ノ協同行爲ニ由リ即チ眞
實有效ノ行政措置ヲ施シ以テ新ニ此事態ニ處スルノ盡力ヲ共ニセンコトヲ以テス而シテ此ノ措
置ニシテ迅速ニ採用セラレ嚴正ニ實行セラルルニ於テハ然ラサル場合ニ於テ我國會カ制定セントス
ル法律ヲ不必要ナラシムヘキ唯一ノ道ナラン

覺 書

日本國又ハ韓國勞働者合衆國本土及布哇諸島移住ニ關スル日本國ノ方針ヲ更ニ有效ナラシムル爲

左ノ計畫ヲ實施セラレンコトヲ提議ス

第一 日本國又ハ韓國臣民ニシテ其ノ國ヲ去ルモノハ日本國政府ニ於テ其ノ旅券ヲ所持スルコト
ヲ要シ此ノ旅券ハ堅牢ニシテ特殊ナル紙ヲ以テ之ヲ作り發給ノ日附ヲ記入シ正式ニ任命セラレ
タル官吏之ニ署名シ(此ノ官吏ハ其ノ署名ヲ速ニ認識シ易カラシムルマテ其ノ數ヲ制限スヘシ)
被發給者ノ物色ヲ確實ニシテ容易ナラシムルニ足ルマテ十分ニ其ノ人相及職業ヲ記述スヘキコ
ト

第二 日本國政府指定方針即熟練ヲ要シ若ハ之ヲ要セサル日本國又ハ韓國勞働者ニ合衆國向キノ
旅券ヲ發給セサルコトハ尙ホ之ヲ持續シ且一切旅券請求者ノ從來職業ノ如何ヲ問ハス合衆國ヘ
到着後依テ以テ其ノ身分ヲ定ムヘキ生計程度ヲ先以テ綿密ニ調査シ合衆國ヘ入國ノ上希望ニ因
リ又ハ境遇ニ迫ラレ勞働者ト爲ルヘキ虞アル者ニハ將來除外ナク全然右旅券ノ發給ヲ拒絕スル
コト

第三 日本國政府ハ勞働者又ハ前記ノ生計程度ニアルモノニ對シテハ一箇年ニ一千以上ノ布哇向
キ旅券ヲ發給セサルコト

第四 今後非勞働者トシテ旅券ヲ發給セラレ其ノ旅券ノ規定ニ違反シ合衆國本土又ハ布哇諸島ニ

於テ手仕事ヲ業トシ又ハ勞働者トシテ右米國領土向ニアラサル旅券ヲ發給セラレ竊カニ右米國領土ニ入ラント企ツル者ハ日本國政府ニ於テ其ノ旅券ニ依テ之ヲ許與シタル權利ヲ失ヒタルモノト認ムヘキコト

第五 現今權利アリテ合衆國本土又ハ布哇諸島ニ在ル勞働者ノ保護セラレンカ爲且之ト旅券規定ニ違反シテ同地ニ在ルモノト區別シ右權利アルモノニ一時不在ノ後其ノ住所ニ歸來スルノ特權ヲ得セシメンカ爲メ日本國政府ハ其ノ右米國領土駐在領事ニ訓令シテ總テ適法ニ其ノ領事管轄區域内ニ在ル日本國及韓國勞働者ノ登録簿ヲ備置キ千九百八年一月一日ヨリ一箇年間ヲ限リ右勞働者ノ請求ニ依リ登録證明書ヲ發給セシメ（此ノ證明書ハ堅牢ニシテ特殊ナル紙ニ書シタル英語全譯文ヲ之ニ添ヘ當該米國官吏ノ捺印シタル裏書ヲ有シ所持者ノ姓名、男女ノ別、年齡身長、出生地、米國領土ヘ渡來ノ日附及場所、前旅券並人相舉動書ノ番號ヲ掲クヘシ）又日本國又ハ韓國勞働者ヲ物色スルニ必要ナル場合ニ於テハ右參考ノ材料ヲ得ントスル當該米國官吏ト協同セシムルコト且千九百八年一月一日ヨリ一箇年ノ後日本國政府ハ前記證明書ノ所有ヲ以テ日本人又ハ韓人カ其ノ政府ノ元旅券ニ違反セスシテ當該米國領土ニ於テ勞働ニ從事スルコトニ對スル唯一ニシテ必要ナル證據ト看做スヘキコト但シ布哇諸島ニ於テハ一箇年一千限以内ノ

旅券ヲ受ケタル勞働者ハ同島到着後一箇年間ハ旅券ヲ證明書ニ代フルノ必要ナキコト

第六 日本國政府ハ其ノ旅券及前記證明書ノ目的ヲ達スル爲合衆國政府ト協力シ適宜ト認メラルヘキ保證ノ方法又ハ其ノ他ノ手段ヲ以テ關係汽船會社ヲシテ米國領土ニ入り同地ニ於テ勞働ニ從事シ其ノ移住ノ規定ニ違反シテ行動シタル日本國人又ハ韓人ヲ其ノ到着後三箇年間に二兩國政府ノ負擔ナク送還セシムルコトニ協力シ若クハ何時ニテモ且何ノ場合ニ於テモ右ノ如キ者ニシテ其ノ移住ノ條件ニ背キタルトキハ之ヲ送還スルノ負擔ヲ合衆國政府ト折半スヘキコト

第三號 明治四十年十二月三十日林外務大臣ヨリ在本邦米國大使「テイ・

ジェー・オブライエン」氏ニ手交セル覺書

帝國政府ハ過般既ニ開陳シタルカ如ク日本國勞働者ノ合衆國移住ニ關シ新ニ何等ノ條約ヲモ締結スル能ハスト雖モ米國大使力注意ヲ促カサレタル事態ニ關シテハ更ニ有效ナル行政上ノ措置ニ出テンカ爲腹藏スル所ナク誠意力ヲ協セテ之ニ處セント欲ス然レトモ大使ノ書中ニ示サレタル所ニ據レハ日本國勞働者ノ米國本土移住ヲ防止センカ爲兩國政府ノ現ニ實施セル行政上ノ措置ハ全ク失敗ニ歸シタリトセラルル如キ觀アルモ是レ帝國政府ノ絶對的ニハ認ムル能ハサル所ナリ其ノ所信ニ依レハ右措置カ十分ニ其ノ希望ヲ達スル能ハサリシハ故アルコトニシテ茲ニ便宜上之カ因ヲ

成セシモノヲ二種ニ別タン即チ其ノ一ハ一時的ノモノニシテ其ノ二ハ既得ノ經驗ニ依リ今後更ニ嚴密ノ豫防ヲ施セハ除去スルコトヲ得ヘキモノナリ

右第一種ニ屬スヘキモノハ勞働者ノ布哇諸島ヨリ英領哥倫比亞ヲ經テ合衆國ニ移住スルモノ竝ニ墨西哥ヨリ其ノ接壤ノ米領ニ移住スルモノ是レナリ帝國政府ノ深ク信スル所ニ據レハ此ノ移動ハ全然一時的ノモノニシテ行政上始メテ現行ノ措置ヲ施スコトナリシ當時ニ於テハ之ニ思ヒ到ラサリシモ刻下考案中ニシテ遠カラス採用セラルヘキ新制ニ依ルトキハ事實上斯ル移動ノ繼續シ難キコトハ之ヲ明示シテ米國政府ヲ満足セシムルヲ得ヘシ

第二種ハ商人及學生ト稱スル日本國臣民ニシテ米國本土ニ往クノ旅券ヲ下附セラレタルモノニ係レリ此ノ如キ場合ニ於テ右特權ヲ享受スルノ權利ナキモノ即チ勞働者ノ陽ニ商人又ハ學生ヲ裝ヒタルモノカ時トシテ旅券ヲ得タルコトハ今ヤ帝國政府ノ知ル所トナレリ然レトモ細心ノ調査ヲ要スル行政上ノ措置ヲ施スノ初ニ當リ若干ノ過失アリシコトハ又已ムヲ得サル自然ノ勢ナレハ此事ハ職ニ旅券ヲ發給スルノ任ニ在ル者ノ爲茲ニ一言辯セサルヲ得ス公平ニ之ヲ斷スレハ右ノ過失ハ未タ經驗ノ足ラサルニ基因スルモノニシテ毫末モ當該官吏ニ於テ故意ニ其ノ職ヲ懈リタルニアラサルナリ帝國政府ノ所見ニテハ今日ノ狀態ニ在リテモ尙既得ノ經驗ヲ以テスレハ本件ニ關スル其

ノ嚴命ヲ遵守セラルヘキハ必然ニシテ苦情ノ原因ハ除カルルニ幾カルヘシ然レトモ帝國政府ハ右陳フル所ニ就キ何等ノ疑ヲモ存セシメサランカ爲更ニ豫防ノ處置ヲ施サントスレハ本書中追テ論シテ之ニ及フヘシ

本件ニ關シ茲ニ注意ヲ促スノ允當ナルカ如キモノアリ即現行行政上ノ措置ニ違反シテ合衆國ニ入リタリト稱セラルル日本國勞働者ノ數ニ至リテハ其ノ實ニ過キタルノ觀アルコト是ナリ斯ク述フルハ右等ノ記事ニ對シ責任アル有司蓋シ「移民局」ノ心意ヲ答ムルノ主旨ニ出テタルニアラサルモ官府ノ統計ハ明ニ右所載ノ數ノ多キニ過クルヲ示セリ英領哥倫比亞及墨西哥ヨリ移住スル勞働者ニ關スル記事ニ至リテハ其ノ概算ヲ掲クルニ止マルコト顯然タリ右所載ノ其ノ他移民ニ至リテハ違反ノ例ヲ舉ケタル比較的僅少ノ場合ヲ除クトキハ縱ヒ其ノ所掲ノ數ヲ正確ナリトスルモ禁止移民ノ部類ニ當然入ルヘキモノナルコトヲ毫モ證明セサルナリ然レトモ帝國政府ハ此ノ種ノ過誤ニ乘シテ自ラ爲ニスル所アラント欲スルニアラス又之ヲ理由トシテ爲ス所ナカラントコトヲ欲スルニアラス時局カ兩國ノ利益ノ爲ニ有力ナル救濟手段ニ出ツルヲ要スルコトハ其ノ全ク同感トスル所ナリ帝國政府カ前記ノ點ニ注意ヲ促ス所以ノモノハ他ナシ此ノ如キ實ニ過クルノ記事ハ縱ヒ故意ニアラスシテ全ク善意ニ出ツルモ其ノ結果ハ兩國政府ノ間ニ横ハル難局ノ慎重ニ處スヘキモノ

ヲシテ益紛糾セシムルニ外ナラストノ所見ニ米國政府ノ同意セラレムコトヲ確信スレハナリ
左ニ論スル所ハ去十一月二十六日附米國大使ノ來信ト同封ノ覺書中ノ事項ニ及ヘルモノナリ

布哇諸島

日本國勞働者ノ布哇移住ハ從來同島ニ存スル實際ノ勞働狀態ニ由リテ之ヲ節制セリ各種ノ耕作地ニ於ケル右狀態ハ時々耕作者組合ヨリ日本國總領事ニ報告シ該總領事ハ所要勞働者ノ數ヲ概算シテ之ヲ日本國政府ニ報告シ而シテ日本國政府ハ之ニ應シ右ノ數ヲ限リトシテ旅券及許可ヲ與フルノミ此ノ措置ハ需要供給ノ經濟的法則ニ率由シタルモノニシテ大體其ノ功ヲ奏セリ而シテ同島ノ最モ顯著ナル產業ナル製糖業ニハ米國勞力ノ曾テ用ヒラレタルコトナク今日モ猶用ヒラレサルハ世ノ共ニ知ル所ナルヲ以テ去十一月十六日附米國大使閣下來示中ノ所論ハ一方ヲ壓倒スルニ足ルヘシト稱セラルル勞力競争ノ存スルモノトシテ立テラレタレハ該島勞働狀態ノ上ヨリ觀ルトキハ之ヲ適切ナリト謂フヲ得サルナリ

此等及其ノ他ノ事情ニシテ布哇諸島ト合衆國本土トハ經濟上地理上及歷史上ニ於テ根底ヨリ相違アルニ基ク所ニ鑑ミ日本國政府ハ布哇諸島ノ地ハ之ヲ本論ノ範圍外ニ措カレムコトヲ切望スルモノナリ

然レトモ同島ニ對シ現制度ノ永久持續ヲ主張セントスルハ決シテ帝國政府ノ意思ニアラサルノミナラス何等特殊ノ事情アリテ之カ爲ニ日本人ノ同島ノ移住ヲ節制スルノ措置ヲ施スコトヲ望マシカラシムルニ於テハ何時ニテモ鄭重ニ之ヲ熟慮セントス唯布哇諸島ニ關スル問題ハ之ヲ刻下審議中ノ問題ト之ヲ別タント欲スルノミ

第一

米國官憲ニ於テハ日本國旅券制度ニ關シ誤解セラルル所アルカ如シ此ノ誤解ハ其ノ手續ヲ説明セハ自ラ除カルルニ至ラン抑モ旅券ハ元ト皆外務省ヨリ發シ外務大臣ハ之ニ署名セスト雖モ其ノ官印ヲ捺ス移住セントスル者ニ下附スル旅券ハ其ノ需要ニ隨ヒ各其ノ府縣ノ知事ニ發送シ順ヲ追テ之ニ番號ヲ附シ其ノ發送シタルモノハ悉ク其ノ目錄ヲ備ヘ府縣廳ヲシテ期ヲ定メテ報告ヲ爲サシメ其ノ下附濟ノ旅券ハ悉ク之ニ載セ不用ニ屬シタルモノハ必ス之ヲ還付セシム而シテ移民ノ乗船港ニ着シタルトキ地方官憲ハ再ヒ陸上及船内ニ於テ之ヲ檢査シ一切ノ事妥當ナラハ其ノ旅券ニ裏書シ穿孔印形ヲ以テ出發ノ日附ヲ券面ニ刻ス以上數種ノ檢査證明及其他ノ豫防の措置ハ悉皆慎重ニ之ヲ行フヲ以テ旅券ノ濫用ヲ極メテ困難ナラシム然レトモ此以上ノ豫防の措置ニシテ調査ノ上實際ニ施シ得ヘキモノアルヲ知ラハ又之ヲ行フコトアルヘシ

第 二

日本國政府ハ日韓労働者ノ熟練ヲ要スル者ニモ然ラサルモノニモ合衆國本土行ノ旅券ヲ發給セサルコトヲ曾テ聲明セシカ此ノ方針ハ舊ニ仍テ之ヲ繼續スルコトニ決セリ但以前ニ合衆國ニ居住シタルモノ及同國ニ居住スル日本人ノ父母妻子ハ此ノ限ニアラスト然レトモ定住ノ農業者即去五月二十六日附ヲ以テ「オブライエン」氏ノ前任者ニ通知シタルカ如キ監督ヲ受ケテ農地ヲ所有シ又ハ農産物若クハ農作物ノ利ヲ分チ享クル農夫ニ至リテハ帝國政府ハ引續キ之ニ旅券ヲ下附セントスルコト勿論ナリトス第二項後半即合衆國ニ入りテ勢ヒ労働者ト爲ルノ虞アル者ニハ一切右旅券ノ發給ヲ拒ムノ提議ニ關シテハ帝國政府ハ學生若ハ商人若ハ労働者以外ノ階級ニ屬スル者ヨリ旅券ヲ請求スル場合ニハ一々最モ嚴密詳細ノ取調ヲ爲スコトニ決シテ既ニ其ノ旨ヲ地方官憲ニ訓令セリ此ノ訓令ニ由リ労働者ニ於テ更ニ詐僞ノ事例ヲ生スルコト能ハサルヘキハ帝國政府ノ深ク信スル所ナリ

第 三

本項ハ專ラ布哇諸島ニ關スルカ故ニ刻下討議中ノ問題トハ別ニ之ヲ論究センコトヲ提供ス

第 四

米國大使閣下ノ必ス知悉セラルルカ如ク日本國政府ノ發給スル旅券ノ本文ハ之ヲ所持スル日本國皇帝陛下ノ臣民ニハ其ノ通過シ若ハ滯留スヘキ外國ニ於テ之ニ相當ノ保護ヲ與ヘラレンコトノ希望ヲ記載セリ是現行條約ノ規定ニ依リ日本國臣民ニ確保セラルル普通ノ權利ナリ而シテ此ノ權利ハ何レノ國ノ政府モ皆其ノ在外ノ臣民又ハ人民ノ爲ニ主張スルヲ常トスル所ノモノニシテ縱ヘ該臣民又ハ人民カ法律違反ノ故ヲ以テ告訴セラレタル時ト雖モ猶且然リトス國內ニ在テ移住ヲ監督シ及制限スルコトハ全ク行政上ノ作用ニシテ國內ニ於ケル右監督及制限ノ逃避ノ爲又ハ外國ニ於テ之ニ關スル法律若ハ規則違反ノ爲其ノ有罪人ノ條約上擔保セラレタル保護ノ褫奪セララルヘキコトヲ豫メ約束スルハ帝國政府ノ能ハサル所ナリ

第五及第六

(一) 在紐育日本國總領事館ハ十七州一區ヲ管轄シ在市俄古領事館ハ二十州一區在桑港總領事館ハ四州二區在「シャトル」領事館ハ六州ヲ管轄ス而シテ此等諸州及諸區ハ概ネ皆數百哩ニ互リ合衆國ニ居住スル十萬以上ノ日本人ハ此等廣漠タル面積ノ處々ニ碁布シ日本國領事ハ此等日本居留民ノ所在ヲ詳悉スルヲ得ス又咸ク之ト消息ヲ通スルニ由ナシ是ヲ以テ閣下ノ提供セララル録方ニ由ルトキハ右居留民ハ其ノ全部ニ非ストモ概ネ皆千九百八年一月ヨリ一箇年後ニハ自ラ

毫末ノ過失ナキニ法律上合衆國ニ留ルノ資格ヲ喪フノ境遇ニ陥リ隨テ又之ニ準スル處分ヲ受クルニモ至ルヘキ結果ヲ生スヘシ

(二) 規則違反トセラレタル日本國又ハ韓國臣民ハ日本國政府ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スルコトナク汽船會社ヲシテ之ヲ送還セシメントセハ法律ヲ制定スルノ必要ヲ生スヘシ而シテ右ノ送還ハ其ノ罪ヲ犯シタリト稱セラルル日ヨリ數箇月若ハ數箇年ヲ經タル後ニ行ハルルヤモ計ルヘカラス日本國政府ニ於テ此ノ如キ法律案ヲ議會ニ提出スルモ到底其ノ協賛ヲ得ルノ望ナキナリ

(三) 是ノ故ニ第五及第六項ニ出ツル米國政府ノ提議ハ絕對ニ不可能ナリトセサルマテモ全ク實行シ難キモノナルニ似タリ此ノ外又右提議ニ由ルトキハ合衆國ニ在ル日本國居留民ハ何レノ時ヲ問ハス輕蔑屈辱ヲ加ヘラルルノ虞ナシトセサレトモ此事ハ姑ク措テ論セス又日本國政府ハ合衆國ニ入リタル日本人ノ安穩ニ生計ヲ營ム者ニシテ入國ノ際ニ於ケルト均シキ苛嚴ナル人身檢査ト厭フヘキ誰何トヲ受クルモノトセハ殆ト堪フヘカラサル權利侵害ト屈辱トヲ勞働者以外ノ日本國居留民ニ加ヘラルルニ至ランコトヲ恐ル從來日本國ノ紳士及時トシテハ大使館員ト雖モ米國ノ移民官ヨリ全ク不條理ナル待遇ヲ被リタル例ニ乏シカラサレハ日本國政府ニ於テ右ノ如キ疑懼ノ念ヲ懷クモ亦宜ナリトス是レ日本國勞働者ノ移住ヲ制限センカ爲船客上陸ノ際ニ施ス

嚴酷ナル處置ヲ廢シ詐僞ヲ豫防スルハ之ヲ日本國行政ノ有效ナル措置ニ一任セラレンコトヲ切望スル所以ナリ

第四號 林外務大臣ヨリ在本邦米國大使「ティー・ジェー・オブライエン」氏

ニ致セル明治四十年十二月三十一日附書翰竝覺書

以書柬致啓上候陳者日本國人合衆國移住ノ件ニ關スル客月十六日二十六日竝ニ本月二十五日附貴東及附屬書類致領收候昨日御會見ノ際御約束致候通本件ニ關スル帝國政府ノ意見ヲ載セタル覺書一通茲ニ致封入候此段申進旁重テ敬意ヲ表シ候 敬具

覺 書

本月三十日外務省ニ於テ會見ノ際米國大使閣下ハ日本國人合衆國移住ノ件ニ關スル帝國政府ノ意見ヲ了得セラレ且同政府ニ於テハ其ノ貴我相互ニ満足スヘキ妥協ヲ遂ケント欲スルノ誠意ヲ幸ニ大使閣下ニ表明シ得タランカ故ニ今ヤ本件ニ關スル大使ノ照會ニ對シ其ノ際述フルコトヲ得タルヨリモ更ニ詳細ニ所見ヲ披瀝シ併セテ帝國政府カ一層有效ニ本件ヲ處理スル爲ニ施サントスル措置ヲ公然開陳スルコトハ機宜ニ適ヘルモノノ如シ

林伯爵ハ大使ノ本件ニ關スル公私ノ所陳カ眞ニ友好和親ノ精神ニ出ツルノ顯著ナルヲ認メテ冒頭

先ツ之ヲ言明スルハ其ノ洵ニ欣慰ニ堪ヘサル所トス米國政府ヲシテ將來經濟上ニ容易ナラサル累ヲ及ホスノ因タルヘシト認メラルモノヲ芟除センコトヲ願ハシムルノ理由ニ至リテハ大使閣下ハ自然之ニ重キヲ措カルルモ尙右經濟上ノ累ト軒輊ナキ難事ニシテ帝國政府ノ處セサル可カラサルモノヲ看過セラルルニ至ラサルコトハ昭然トシテ明カナリ米國政府ノ意見ヲ左右スル事情ノ輕カラザルハ帝國政府ノ十分ニ之ヲ認ムルト同時ニ大使ニ於テモ亦其ノ政府ヲ代表シテ開陳セラレタル所見中日本ノ道ニ横ハル難問題ノ慎重ニ處スヘキモノアルヲ認メラタルハ日本國政府ノ了知シテ満足スル所ナリ林伯爵ノ如ク兩國互ニ雙方ニ於テ排除スヘキ難事アルヲ認ムルコトハ本件ノ満足ナル解決ヲ遂ゲシムルニ與リテ大ニ力アルヘキモノト爲シ不可ナルナキヲ確信ス

林伯爵ハ審議中ノ問題ニ附隨セル種々ノ爭點ニ關シ十一月十六日附書東中ニアル大使ノ言ニ注意セリ今大使ノ宥恕ヲ請ヒ聊カ之ニ就テ陳フル所アラントス例ヘハ桑港學校問題ノ如キハ帝國政府ノ態度ハ要スルニ毫モ日本人ノ兒童ノ爲ニ特別ノ權利又ハ破格ノ特權ヲ得ント欲スルニアラス單ニ他國人ノ兒童ノ爲ニハ任意ニ何ノ故障モナク普ク與ヘラルル特權ヲ得ント欲スルノミ該特權ハ條約ノ文面及精神ニ由リ日本人兒童ニ確保セラレタルコトハ帝國政府ノ深ク信スル所ナリ同政府ニ於テハ米國中央政府ト州及市ノ政廳トノ間ニ存スル關係ノ爲若ハ桑港當時ノ形勢ノ爲華盛頓政

府ヲ困惑セシムルノ原因トナルヘキ問題ヲ提起セント欲スルノ意ハ毛頭之ナカリシト同時ニ日本國政府ノ出ツルヲ得ヘキ唯一ノ方針ニシテ先例ノ上ヨリモ至當ト認メラルモノヲ採レリ大使ハ右事件カ日本國人ノ移住ニ關スル運動ニ重要ナル關係ヲ有スルコトヲ信セント欲セラルルニ似タリ同事件ヲ以テ單ニ該運動ノ一部ト看做ストキハ敢テ大使ノ所見ニ異議ヲ唱フヘキニアラスト雖モ之ヲ以テ運動ノ一因ト爲スニ至リテハ然ラサルナリ不幸ニシテ日本國人ノ移住及實際日本國人一切ノ利益ニ反對スルノ運動ハ學校問題ノ遠ク未タ生セサル前ヨリ桑港及其ノ他ノ加利福尼亞地方ニ始メラレテ既ニ大ニ其ノ步武ヲ進メタリ帝國政府ハ米國中央政府カ幸ニシテ其ノ平生ニ背カス當時ニ於テモ正義公平ヲ以テ事ヲ處スル傳來ノ方針ニ由リ速ニ救済ノ策ヲ施スニ努メラレタルヲ認メタリ而シテ同事件ハ妥當ニ其ノ局ヲ結ヘリ茲ニ本件ヲ論スルニ稍詳細ニ涉リタルハ本來其ノ事ノ眞實重要ナルカ故ニアラスシテ單ニ其ノ米國ニ於ケル趨勢ノ徵スルニ足ルヘキ性質ヲ具スルニ重キヲ措キタルト又日本國ノ學校殊ニ臺灣ノ學校ニ於ケル外人ノ就學ニ關シ大使ノ所陳アルトニ由レリ此ニ至リ辯明セサルヲ得サルモノアリ臺灣ニ於テ行ハル習慣ハ決シテ差別ヲ設ケタルノ例ニハアラスシテ全ク清國人父兄ノ希望ヲ顧タルニ出テタルコト是ナリ清國人ノ子弟ト雖モ父兄ニシテ之ヲ欲セハ日本人ノ學校ニ入ルヲ得ヘシ然レトモ清國人ノ父兄ハ多ク清國風ノ教育法

ニ由ランコトヲ欲スルヲ以テ兩教育法ハ駢比シテ行ハルルナリ日本帝國内地ノ學校ハ一切外人ノ爲ニ門戸ヲ開放セリ其ノ官公立學校ニ出席スル外國生徒ノ數多ナルハ以テ其ノ入學ヲ許スニ吝ナラサルヲ證スルニ足レリ

大使カ正ニ本件中右ヨリモ遙ニ重大ニシテ困難ナリト稱セラルル點ハ即チ米國ニ於ケル勞働狀態ノ問題ニシテ是レ純然米國國內ニ關スル事件ナルヲ以テ林伯爵ニ於テハ如何ニ無害ノ意ニ出ツルモ嘴ヲ插ムヘキノ限ニアラサルヘシ米國ノ利益ヲ増進スルニ最モ適シタル方法ニ由リ斯ル事ヲ處理スルハ米國政府ノ權利ナルニ論ナキハ帝國政府ノ認ムル所ナリト雖モ華盛頓政府カ本事件ニ處スルニ此ノ主義ニ由ルト同時ニ米國カ日本ト交ルニ顯然タル特色ナル一貫寬裕高明ノ精神ヲ以テスヘキコトハ帝國政府ノ深ク信スル所ナリ夫ノ勞働社會ノ狀態ハ一般ニ互ルニアラスシテ寧ロ地方特發ノモノナルカ又日本ニ關シテハ特別ノ救濟方ヲ要シ其ノ救濟方タル縱ヒ成規ノ如ク之ヲ認許セララルモ眞ニ懇親ナル國際的關係ニ必要ナル對等交際ヲ傷フモノト認メサルヲ得サルモノナルカ是レ林伯爵ノ意見ヲ陳フルヲ辭セントスル所ナリ兩國政府ノ共ニ目的トスル所ニ對シテハ帝國政府ハ大使ノ書面ニ表明セラレタル意志竝ニ米國政府ノ意見ノ有ル所ヲ認メ腹藏ナク誠心力ヲ費セテ本事態ニ關スル一切ノ難局ヲ除クヘキ妥協ヲ遂ケント欲スルコトヲ大使ニ確保スルヲ以テ

足レリトス

大使ノ書面中ニ論及セル他ノ事項ニシテ林伯爵ノ既ニ親シク大使ニ辯明シタルモノ數種アリ之ヲ記錄ニ留メンカ爲其ノ中ノ顯著ナル點ヲ約說スヘシ其ノ至要ナルモノハ米國官憲ノ明ニ懷ケル所信即現行行政上ノ規定ハ米國本土ニ向フ日本國勞働者ノ輻湊ヲ節制スルニ足ラサルヲ示セリトノ意見ニ關セリ林伯爵ノ陳ヘタルカ如ク帝國政府ハ此ノ意見ハ絶對的ニ全然妥當ナリトシテハ容ルルニ躊躇スルモノナリ帝國政府ノ信スル所ニ據レハ右處置ノ十分ニ希望ヲ達スルニ至ラスシテ失敗ニ歸シタルハ一ハ一時的ノ原因ニ出テ其ノ再現スルコトハ蓋シ將來萬之ナキニ至ラシメラルヘシ又一ハ日本國政府カ新ニ施サント欲スル措置ニ由リ全ク除去セラルヘキ原因ニ出ルモノナリ林伯爵ハ又米國移民官ノ報告ニ出ツル員數ニハ幾許カ正確ナラサルカ如ク見ユル所アルヲ以テ之ニ大使ノ注意ヲ促セリ例ヘハ合衆國ニ入ル日本人ノ數ハ減少スルコトナクシテ大ニ増加シ前年中ノ六千四百五十四人ニ對シ最近十二箇月中ニ到來シタルモノハ一萬二千四百七人ニ及ヘリト謂ヒ又入國勞働者ノ數モ増加シ合衆國本土行ノ旅券ヲ所持スル一千八百五十八人ノ日本國勞働者ハ九月三十日ニ終ル六箇月間ニ入國ヲ許サレタリト謂ヘリ

右第一ノ記事ニ關シテハ日本國官府ノ統計ニ據レハ千九百六年中米國領土ニ向フ有ラユル階級ノ

モノニ發給シタル旅券ノ總數ハ一萬九千八百八十八ニシテ此ノ中一萬四千七百二十六人ハ布哇諸島ニ行キ五千六百六十二人ハ米國本土ニ行ケリ此ノ後者ノ中ニハ他國行ノ途次合衆國ヲ經過セル一切ノ者ヲモ含メリ千九百七年ニ在リテハ一月ヨリ十月ニ至ル總數ハ一萬五千六百六十八人ニシテ此ノ中一萬〇七百三十二人ハ布哇諸島ニ行キ四千四百三十六人ハ米國本土ニ行ケリ此ノ後者中三千六百八十四人ハ非勞働者階級ニ屬シ七百五十二人ハ勞働者ナリ而シテ右ハ合衆國ヘノ歸還者若ハ同地既住勞働者ノ家族又ハ定住ノ農業者ナリトス林伯爵ハ斯ノ如ク雙方記事ニ齟齬アルノ理由ヲ解スルニ苦ムト雖千九百七年中米國本土ニ移住スル勞働者ニ下附シタリト稱セララル旅券數ノ必シモ正確ナリ難キコトハ斷言セラルヘシト信ス尤モ若干ノ勞働者ニシテ商人又ハ生徒ニ假扮シテ米國本土行ノ旅券ヲ得タルコト後ニ帝國政府ノ知ル處トナリタルハ事實ナリト雖斯ル場合ニ對シテ相當ノ斟酌ヲ加フルモ尙其ノ總計數ハ大使ニ報セラレタル所ニ及ハサルコト遠シトセサルヘカラス然レトモ帝國政府ニ於テハ此種ノ過誤ニ乘シテ自ラ爲ニスル所アラントシ又ハ之ヲ理由トシテ爲スコト無カラントスルノ意毛頭之ナキコトヲ十分知悉セラレンコトハ林伯爵ノ希フ所ナリ而シテ兩國ノ利益ノ爲ニ何等ノ救濟手段ニ出ツルコト時局ノ要スル所ナルハ帝國政府ニ於テ全ク同感ニシテ其ノ本件中ノ此點ニ注意ヲ促シタルハ唯タ右ノ如キ過大ノ記事ハ縱ヒ故意ニアラスシテ

全ク善意ニ出ツルモ其ノ結果ハ合理允當ノ妥協ヲ遂ケントスル兩國政府ノ共和盡力ヲ益困難ナラシムルニ外ナラストノ意見ニ米國政府ノ同意セラレンコトヲ確信スルニ由ルナリ

大使ハ十一月十六日附ノ書信中米國政府ノ所見ヲ述ヘテ曰ク

太平洋岸ニ來ル日本人ノ多數ハ大舉移住ト稱スヘキモノニシテ條約ノ目的トスル通常又ハ偶然ノ旅行及居住トハ全ク其ノ趣ヲ異ニシ而シテ其ノ日本人ノ賃銀及生活費ノ程度低キカ爲ニ之ヲシテ米國勞働者ヲ排シテ之ニ代フルコトヲ得シムルヲ以テ太平洋岸ノ勞働者ニ害アルモノナリ

大使閣下ハ之ニ左ノ如ク附言セラレタリ

日本國ニ於テハ外國勞働者ノ競爭ニ對シテ自國ノ勞働者ヲ保護スルノ權利ヲ認メラルルノミナラス近頃ノ一例ニ由レハ其ノ排斥ヲ有效ナラシムル爲大活動ヲ示サレ將來其ノ意志ノ存スル所ニ就キ一點ノ疑ヲ留メシメサルコトハ大使ノ之ニ説及スルヲ要セス是レ清國人ノ排斥並特別ノ許可ナクシテ外國勞働者ノ内地ニ入ルコトヲ禁スル法令ノ制定ヲ謂フナリ

茲ニ右ノ二節ヲ引キテ竝記シタルハ林伯爵ニハ右ニ表明セラレタル所見ニ十分ノ重キヲ措クモ其一節ノ前提ハ他ノ一節ニ包含セル歸結ノ意ヲ確定シ難キノ觀アルヲ以テナリ實際上後節ニ説及ノ

法令ハ無條約國又ハ一定ノ條約制限以外ニ自由ニ居住營業スルノ特權ヲ日本國臣民ニ許與セサル國ノ勞働者ニノミ關スルモノニシテ決シテ一般勞力ニ就キ又ハ實際前記ノ國ノ勞働者タルモ法律ノ要スル手續キヲ爲シタルトキハ之ニ就キ排斥主義ヲ採用シタルノ意ニアラス日本國ニ於ケル各種ノ清國勞働者ノ數ハ甚タ夥シク就中臺灣島ノミニ殆ト九千人アリ是レ法律ノ規定ニ從ヒ年々同島ニ渡航スルモノナリ又以テ帝國ニ於テハ清國勞働者ニ對シ排斥主義ヲ施行セサルヲ徵スルニ足レリ

林伯爵ハ翻テ右第一節ニ就テ論スルコトハ衷心稍躊躇スル所ナシトセス是前ニモ既述シタル如ク米國國內ニ關スルモノニシテ伯爵ノ論スルコトヲ差控ヘント欲スル如キ事項ノ部類ニ屬スレハナリ唯其ノ件ノ現ハルル特別ノ關係ニ於テ述ヘラルルニ由リ林伯爵ハ之ニ就キ自然其ノ心ニ浮フ所ヲ述フルモ不可ナシト認メラルヘキヲ信ス米國政府カ此ノ節ニ表明セル意見ヲ懷カルルハ自然伯爵ノ深ク遺憾トスル所ナリ日米兩國ハ共同ノ利益ヲ有シ地理上相隣レルノミナラス未タ僅ニ其ノ一部ノ開發ヲ見ルニ過キササル太平洋岸天然ノ資源ハ正當ナル凡百ノ企業ヲ誘ヒテ之ニ機會ヲ與ヘントシ之ニ加フルニ勞力ノ匱乏ヲ告クルヲ以テ是レ皆先天的ニ日本人ノ移住ヲ歡迎セントスルモノノ如シ而シテ實際上右ノ移住ハ其ノ最モ盛ナリシ時ニ於テモ一箇年間ノ總入國數ハ往々一

日ニシテ紐育ニ入港スル移民ノ數ニ及ヒシコト未タ曾テ之アラサルナリ而シテ林伯爵ノ信スル所ニ據レハ右紐育ニ上陸スル者ノ大多數ハ之ヲ同數同種類ノ日本人ニ比スルニ賃銀及生計ノ程度ニ於テ敢テ高カラサルノミナラス或ハ之ニ及ハスト謂フモ確實ナル反證ヲ舉ケラルルノ恐ナカルヘシ又林伯爵ノ所見ニテハ太平洋岸ニ多數日本人ノ存在スルカ爲メ米國勞働者ノ賃銀及生計ノ程度ヲ低クシタリトノコトハ未タ曾テ明ニ證明セラレタルコトナシ米國勞働者ノ賃銀ハ到ル處太平洋岸ヨリ高キハナク其ノ率ハ日本勞働者ノ入國最モ盛ナリシ數年間ニ於テ著々高キニ向ヘリ而シテ日本勞働者ハ其ノ從事スル勞働ニ對シ得ラルル限ノ高率賃銀ヲ得テ以テ自ラ利スル所アリタリ而モ其ノ特ニ奇ナルハ日本勞働者カ一面ニ於テハ米國勞働者ノ當ルヲ得サル競争ヲ行フテ之ヲ害スルトテ攻撃セララルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ其ノ勞働ニ對シテ至高ノ賃銀ヲ貪ルト終始非難ヲ受ケ來レルコト是ナリ

然レトモ此等ノ事項ハ之ヲ縷述スルモ何ノ益ナキ節目ニ屬セリ日本國政府ノ差當目的トスル所ハ相當ニ其ノ國ノ利益及威嚴ヲ顧ミテ爲スコトヲ得ル限ハ米國政府ノ希望ニ應シテ以テ實際上ニ於ケル事局ノ難ヲ排セントスルニアリ林伯爵カ昨日口頭ニテモ又念ノ爲大使閣下ニ交付シタル文書中ニテモ腹藏ナク帝國政府ノ所見ヲ陳述シタルハ右ノ目的ニ出タリ

茲ニ前説ヲ反覆シ且更ニ説明ヲ加ヘテ米國政府ノ參考ニ供センカ爲林伯爵ハ帝國政府ノ所見及其ノ將ニ施サントスル措置ノ要略ヲ左ニ掲ク

(一) 帝國政府ハ會テ日本勞働者ノ熟練ヲ要スル者ト然ラサルモノトヲ問ハス米國本土行ノ旅券ヲ發給セサルノ方針ニ出ツルヲ言明シタルカ此ノ方針ハ舊ニ仍リ繼續スルコトニ決セリ但合衆國ニ會テ居住シタルモノ又ハ在米日本居留民ノ父母妻子ハ此限ニアラス

(二) 然レトモ日本國政府ハ定住農業者ニハ舊ニ仍リ旅券ヲ發給セントス尤モ去五月二十六日前任大使閣下ニ述ヘタルカ如ク帝國政府ハ此等移民ニ關シテハ慎重嚴重ノ監督及制限ヲ加ヘ右ノ特權ハ一定ノ地方ニ定住セントスル眞實ノ農業者ノミニ之ヲ許與セリ而シテ一切詐僞ノ手段ニ出テサラシメンカ爲中央政廳ハ五月二十六日附ノ説明書ニ掲ケタル豫防的措置ヲ嚴ニ施スコトヲ繼續スヘシ

(三) 帝國政府ハ學生、商人、遊歷者等ノ合衆國行旅券下附ヲ出願スル毎ニ其ノ出願者ノ着米後勞働者トナルノ虞ナキヤ否ヲ確ムル爲精細ノ調査ヲ行フヘキコトヲ府縣知事ニ訓令セリ而シテ此ノ調査中重要缺ク可カラサル點ハ出願者ノ資力如何ニ關スルモノトシ若シ出願者ニシテ學生、

商人又ハ遊歷者トシテ其ノ地位ヲ永ク維持スルニ足ルヘキ資力ナキトキハ學生ノ場合ニ於テハ其ノ家族若ハ特別ノ保護者ヨリ又商人若ハ商業雇人ノ場合ニ於テハ其ノ商店若クハ商會ヨリ其ノ費用月費見積額四十圓ノ支辨ヲ保證セシメ又遊歷者ノ場合ニ於テハ十分旅費支拂ノ保證ヲ立テシメ請求ノ旅券ハ右保證ヲ納レタル後始テ之ヲ發給スヘシ而シテ學生ノ場合ニ於テハ更ニ一層ノ豫防ヲ加ヘンカ爲中學卒業ノ者ニアラサレハ右旅券ヲ發給セサルコトトス

(四) 審議中ニ係ル問題ノ範圍外ニ置カレンコトヲ提供シタル布哇諸島ニ關シテハ帝國政府刻下ノ意思ハ歸島移民及該島既住者ノ父母妻子ノ如キ單獨ノ場合ヲ除キ試驗ノ爲當分該島ノ移住ヲ一切禁止セントスルニアリ

(五) 帝國政府ハ合衆國ニ隣接スル外國領土行ノ日本勞働者移住ニ關スル措置ヲ施サントス同政府ハ此ノ措置ニ由リ以テ右移住ヨリ生スル苦情ノ原因ヲ一切除クニ足ルヘシト爲ス
大使閣下及其ノ政府ニ於テハ前述ノ要略ニ徴シ帝國政府ノ希望及意志ハ時局ノ求ニ應スルニ足ルヘキ節制及監督ニ關スル行政上ノ處置ヲ施サントスルニアルコトヲ十分ニ認メラルヘキハ林伯爵ノ深ク信スル所ナリ

第五號 在本邦米國大使「ティー・ジェー・オブライエン」氏ヨリ林外務大

臣ニ致セル明治四十一年一月二十五日附來翰

以書翰致啓上候陳者移民規則及其ノ制限ニ對シ或ハ規定ヲ設クル件ニ關シ去ル十二月三十一日附貴翰ヲ以テ御意見御開示ノ趣致了承候右御協議ノ趣意ハ合衆國政府ノ注意迄ニ致提供置候處今般右貴翰ニ對スル回答トシテ左ノ考案ヲ閣下ニ提出スヘキ訓令ニ接シ申候合衆國政府ハ貴大臣閣下ノ覺書ニ通ニ對スル概要ヲ電報ニテ領收シ日本帝國政府ニ於テハ昨年十一月中合衆國政府ヨリ及提議候行政方法執行ニ對シ相互協助のニ且誠實ニ隔意ナク協同一致シテ之ニ當ルヘキ御精神アルコト竝ニ其方法ノ如キ日本ニ對シ最モ都合能ク其結果ニ於テハ日米兩國共ニ其最上ノ利益ヲ保護スル上ニ於テ必要ト認ムル範圍ニ於テ速カニ本件ヲシテ有效ナラシメントノ御精神ナルコトハ我政府ニ於テモ十分感得致シ候儀ニ有之候

右樣案出ニカカル方法ニシテ他日確然タル具體的ノモノトシテ之ヲ實施スルニ於テハ御協議中第一以下三項ノ目的ヲ達スルニ足ルモノト假定スルヲ以テ或ハ適當ナラント認ムルモ合衆國政府ニ於テハ御提議ニカカル第四及第五項ノ如キ方法ヲ根本的ニ應用スルモ猶他ノ各項ヲシテ實際有效ナラシムルニ足ルヤ且日本政府ノ旅券規則ヲシテ米國領内ニ施行セシムルニ足ルヘキヤノ懸念ヲ

全然排除スルコト不可能ノ儀ニシテ而シテ從來執リ來リタル手段モ亦右目的ヲ達セムトスルニ外ナラサル儀ニ有之候右二項提議ノ趣旨ハ相互共通ノモノタルヘキハ論ヲ俟タス且米國政府ニ於テハ更ニ進テ本件ニ對シ同情的ノ調査ヲ加ヘラルルニ於テハ右提議ノ論旨ニ於テ一致セラルルカ乃至本件ノ進捗ヲ謀ルノ目的ヲ達セシムルニ於テ援助トモナルヘキ他ノ方法ヲ案出スルノ一法ヲ御講究可相成コトト十分確信スル處ニ有之候

第四項ノ協議ニ關シテハ旅券攜帶者力之ニ據リテ附與セラレタル一般ノ權利ノ何レヲモ褫奪セララルカ如キコトハ毫モ曾テ企及シタルコトナキモ該旅券ハ既ニ開陳シタルカ如キ場合ニ於テハ移民力元來其自國政府ヨリ負フ處ノ條件ニ違反スルモ猶米國領内ニ居住シ得ヘシト云フ效力ヲ有セス之ヲ反言セハ日本臣民力其帝國政府ヨリ負フ處ノ制裁ヲ巧ミニ違背シ得タル場合ニ際シ右制裁ヲ免カルルカ如キ權利ヲ新タニ收得シタルモノト見做スヘカラスト云フ儀ニ有之候

第五項ノ協議ニ關シテハ誤解タルコト明瞭ニ有之候其故ハ右ニ企及致候人物證明ノ必要ハ勞働ニ從事スルモノニ對シテノミ存在シ勞働者ニアラサルモノニ對シテハ毫モ關係ナキコト勿論ニ有之候尤モ合衆國政府ハ第五項中ニアル考案ニシテ其日本政府ノ意ニ適セサル以上ハ強テ之ヲ遂行セントノ意思ニハ無之候得共合衆國政府ハ日本臣民ノ其政府ノ許可ヲ得テ合衆國ニ渡航スル場合ニ

ハ日本政府カ自カラ一定ノ方法ヲ設ケ其渡航人員ヲ調査スルコトヲ甘諾セラルルコトヲ希望致候
右方法ハ日本政府カ其移民ニ對シ渡航數ヲ制限スルニ當リ之カ違反者ヲ妨止スル場合ニ於テ兩國
政府ヲシテ協同一致ノ態度ニ出テシムルコトヲ得レハナリ今ヤ合衆國政府ハ其諸外國在留ノ都テ
ノ米國市民ニ對シ其在留管轄地ノ合衆國領事館ニ就キ登録スルコトヲ要求致居候且各領事ヲシテ
登録證明書ヲ發給セシムルコトヲモ命令致置候

右證明書ハ右登録ヲ受ケタル者ヲシテ其身分及條約上ノ實證ヲ容易ニ提出シ得ヘキ爲ニ使用スル
目的ニ有之候(千九百七年四月八日附行政命令領事規則第一百七十二章改正及ヒ千九百七年四月十
九日附國務省回章參看)米國市民ニ對シ右ノ如キ政略ヲ適用スルハ必要ニシテ且異論ナキモノト
認メタルノ事實ハ第五項ノ協議ヲ提出シタル時致考量居候儀ニ有之候

合衆國ニ於テハ宇內各國ヨリ渡來スル處ノ移民ニ於テ屢其移民入國法ニ違反セントスルモノアル
ヲ以テ同法中幾多ノ條項實施上米國政府ノ官吏ヲシテ何レノ外國人カ合法ノ居住者ナルカ何レノ
者カ然ラサルカヲ判定セシムルノ目的ヲ以テ同政府ハ一般ニ猶一層嚴重ナル規則ヲ採用スルノ必
要ヲ認ムルニ至ルヘク右様ノ場合ニハ合衆國政府ハ每事其移民所屬ノ本國政府ト全然協同一致ノ
運動ニ出ツルコトヲ希望可致候之ト同時ニ日本帝國政府ニ於テ本件ニ對シ熱心ノ考慮ヲ與ヘラル

ルニ於テハ合衆國政府ハ頗ル喜悅可致候

第六項ノ協議ニ對シテハ合衆國政府ハ米國國法ニ違反シテ米國國境ニ進入スル外國人ヲシテ三年
以內何時ニテモ米國諸港ニ入港スル汽船ノ會社ヲシテ送還セシムル義務ヲ負ハシメ得ルコト容易
ニ有之候現ニ存在スル處ノ協定ニテハ加奈陀ニ入港スル英國各汽船ニテモ亦右同様ノ義務ヲ負ヒ
申居候合衆國政府ハ日本帝國政府カ本問題ニ於ケル學理的法律上ノ關係ニ對シ再審査ヲ加ヘラレ
日本汽船會社ヲシテ右様ノ協定ニ加入セシムルカ然ラサレハ同會社ノ協助ヲ得ル爲メ行政上ノ手
段ヲ發見セラルルコトヲ希望致候

日米兩國間ニ於ケル統計上ニ相違アルコトヲ發見致候件ニ關シテハ合衆國政府ハ其政府ノ統計ハ
入港船舶ノ船目錄ト其來着ノ移民ト其實ナル事實トニ據リテ十分精密ニ編纂スルモノナ
レハ每事十分精確ナル證據ヲ有シ居ルコトヲ單ニ言及スルニ過キ不申候右様ノ事實有之候ニ付自
然不都合ノ輩アリテ日本政府ノ旅券規則ニ對シ盛ニ詐欺ノ行爲ヲナセリトノ懸念ヲ抱クノ根據
モ有之候儀ニ候

本信第三頁ニ係ル千九百七年四月八日附行政命令寫爰ニ添附閣下ニ及御送附候
本日附本使ノ書翰ニ加フルニ本使ハ或ハ追加ノ方法ニ對シ貴大臣ノ御承諾ノ上之ヲ御採用アル様

貴大臣ニ對シ是非御協議可致様希望被致候右方法ハ貴大臣ヨリ御提議相成候モノト併行實施セラルル場合ニハ目下討論中ニカカル本問題ニ對シ日本政府ノ政略ヲシテ猶一層有效ナラシムルモノト確信致サレ居候

爰ニ本使ハ此機會ヲ利用シ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

規則二十一(J)

(J)實用且行政上ノ目的ヲ以テ「熟練、不熟練ノ勞働者」ナル名義ハ千九百七年三月十四日附行政命令ノ意義ノ範圍内ニ於テハ第一ニ重ニ身體的ノ仕事或ハ少クモ手工的ノ仕事ニ従事スルモノ即チ農業日雇、道路人足、工場人足、土木請負方人足、厩人足、荷役人足、船積人足、鑛夫其他類似者ヲ指シ又大工、石工、瓦職、「ペンキ」塗工、鍛冶工、機械工手、裁縫工、印刷工等ノ如キ其ノ仕事ハ前者ニ比シ身體的ニアラサルモ尙手工的ノモノニシテ且非常ニ熟練ナルモノヲ指スト知ルヘシ然シ其ノ仕事ノ明カニ手工的ニモ亦機械的ニモアラスシテ寧ロ本業的、美術的、商業的又ハ書記的ノモノ即チ藥劑師、製圖師、寫眞師、意匠師、賣子、簿記方、速記者、寫字生等ノ如シ前條ノ定義ハ時々變更セラルヘク且商勞務大臣ハ各種各様ノ事實ト場合トニヨリ控訴ヲ求ムル處ノ各單獨ノ訴件判定ニ際シ右變更ノ爲メ更ニ阻害セラルルコトナシ

第六號 在本邦米國大使「テイ・ジェー・オブライエン」氏ヨリ林外務大

臣ニ致セル明治四十一年一月二十五日附來翰附屬書

本日附本使ノ書翰ニ關スル追加方法ニシテ移民制限ヲ一層有效ナラシメ且一層滿足スヘキ結果ヲ生スヘシト堅ク信セラルルモノニ有之候

第一 旅券ハ其偽造及他人轉用ヲ防止スル爲嚴重ニ調査ヲ加ヘラレ其下付ノ際ニモ亦多大ナル注意ヲ拂ハルヘシ

第二 曾テ米國領内ニ居住セル勞働者又ハ既ニ渡米セル勞働者ノ兩親、妻又ハ小兒ニ對シ旅券下付ノ際ハ十分ニ用心ヲ加ヘ且其數ヲ制限セラルヘシ左ナキニ於テハ濫發ノ弊必定ナルヘキ恐れアリ

第三 永住農業者ニ關シ採ルヘキ豫防方法ノ要點モ亦指示セラレアリ右永住農業者トハ小農資本家ニシテ彼ノ單ニ契約上農業仕事ヨリ收得スルモノヲ以テ其ノ給料ニ充用セラルル所ノ農業日雇ニアラサルモノト了解致候ニ付此標準ニ從ヒ右ノ如キ經濟上ノ位置ヲ有スルモノニ對シシテノミ相當ノ數ニ於テ旅券ヲ下付セラルヘシ然ルニ右農業者カ右様ノ資格ヲ有スト云フモ現實ニ土地ノ所有權ヲ有スルニアラサレハ適以テ米國契約勞働法違反ヲ免カルル一ツノ口實ニ過キサ

ル事實ト相成可申候

第四 日本政府カ其勞働者ニ對スル解釋カ米國ニ適合セラルコト全然必要ナリ其一例ヲ舉クレハ十二月二十七日ヨリ一月十日迄ニ太平洋諸港ニ到着セル日本人百十八人ハ米國ノ規則ニヨレハ勞働者ナリシモ彼等ハ勞働者外ノ者トシテ旅券ヲ申受ケ居タリ又右期限内ニ勞働者トシテ旅券ヲ携帶シ來レルモノ僅ニ四人ナリキ

第五 布哇行ヲ目的トスル勞働者ニ下付スヘキ旅券ハ米國大統領ニ於テ他日承諾セラルル迄ハ一ケ年一千名ニ限ラルヘシ

協議第一項ニ關スル意見ノ一例ハ米國市民ニ發給スル旅券ニ就テ見ラルヘシ右各旅券ニハ携帶者ニ關スル一切ノ記事ト本人及發給官吏ノ記名アルヲ見ルヘシ右旅券ヲシテ一層有效ナラシメンニハ各旅券面ノ記事ハ日英兩國語タルヘク且携帶者ノ行キ先及其下付セラレタル事實其備役ニ關スル制限ヲ平易ナル文字ニテ記入セラルヘシ

第七號 林外務大臣ヨリ在本邦米國大使「テイ・ジェー・オブライエン」

氏ニ致セル明治四十一年二月十八日附書翰竝覺書

以書翰致啓上候陳者日本移民合衆國へ渡航取締方ニ關スル十二月三十一日附拙信ニ對シ客月二十

五日附貴翰ヲ以テ附屬書相添へ御回答ノ趣致敬承候

合衆國政府ハ右拙信中表明シタル意見ト提議トニ依リ互ニ相助ケ隔意ナク誠意協力スルノ精神アルノ證左ヲ了得セラレタルコトヲ承知致候處右ハ全ク本件ヲ解決スヘキ唯一ノ良法ハ雙方同心協力ノ方針ヲ固守スルニ在リトノ帝國政府ノ信念ヲ林大臣ニ於テ明白ニシ得タルコトヲ證明スルモノニ有之本大臣ノ頗ル満足トスル所ニ有之候殊ニ前記貴答ニ依リ合衆國政府ハ右ノ意見ト相一致シ且ツ帝國政府ノ最モ適當ト認ムル主義ニ遵依シ以テ本件交渉問題ノ解決ヲ見ントスル御希望ナルコトヲ判然證明セラレタルモノト拜察セラレ本大臣ノ特ニ一層満足トスル所ニ有之候

前記貴信及其附屬書ニ對スル卑見ヲ抱有セル覺書一通爰ニ及御送附候條御查收相成度尙ホ該覺書ニ依リ閣下ハ帝國政府カ其管掌ニ係ル利益ヲ適當ニ保護スル上ニ於テ差支ナキ限り合衆國政府ノ希望ニ應スルノ考ヘナルコトヲ更ニ明白ニ御了知相成ルヘキ儀ト確信致候

右申進旁本大臣ハ爰ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

覺 書

十二月三十一日附林伯爵ノ書翰ニ添附スル處ノ覺書中同氏ハ帝國政府カ將ニ實施セントスル移民規則及制裁ニ對シ更ニ制定スヘキ行政上處分法ノ概要ヲ舉示シタリシカ右方法ヲ有效ニ實施セン

カ爲メ目下必要ノ手段執行中ナリ就テハ右處分方法ハ十一月二十六日附貴大使ノ書翰ト共ニ御送付アリタル覺書中御協議第一ヨリ第三迄ノ分ニ對シ十分其ノ趣旨ヲ達スルコトハ林伯爵ノ確信スル處ニシテ且同時に帝國政府ハ北米大陸ニ對シテハ嚴重ニ移民ヲ制限シ又布哇諸島ニ對シテハ當分移民ノ新渡航者ヲ停止シ以テ右方法ノ實施ヲ希望セルコトハ既ニ閣下ノ御諒知セラルル處ナルヘク前述貴大使ノ覺書中第四及ヒ第五ノ御協議ニ關シテハ右覺書中ニ提言セル方法ヲ全然採用スルコトノ件不可能ナルコトヲ相認メ申候、米國政府ハ日本旅券方法ニ關シ稍誤解セルモノノ如シ之レ旅券其物ニ條件ヲ有シ之レニ違背スル場合ニハ處分セラルルモノトノ確信ヨリ自然生シタルモノナルヘケレトモ右ノ如キ事實ニハアラスシテ旅券ハ都テノ場合ニ於テ一定制限ノ下ニ發給セラルルモノナリ之レヲ反言セハ旅券ハ或ル特殊ノ資格ヲ有スルモノニ對シテノミ發給セラレ亦其資格ハ責任ヲ有スル官憲ノ滿足スヘキ樣確證セサルヘカラスシテ該官憲ハ調査上最モ注意ヲ加フヘキ旨ヲ訓示セラレ居リ且今後ハ新行政處分法ニ據リ出願者ノ現實ノ位地判定上從前ニ比シ更ニ手數ヲ加ヘ從テ猶右方法ノ一層有效ナルコトヲ希望ス尤モ右方法ニヨレハ違反者ノ數ノ最少數迄ニ減少セラルヘキコトハ切實ニ期待スル處ナルモ旅券其物ニ於テハ之レニ違背スルモノアリト雖モ其違背者カ帝國ノ管轄外ニ出テタル後ニ於テ帝國政府力之レニ對シ加刑スルノ條件ヲ有シ居ラ

サルナリ又假令之レニ加刑シ得ルトスルモ斯カル處分ハ却テ事實不公平ナル行爲タル場合モアルヘシ例ヘハ誠實ニ留學生若ハ商人ノ旅券ヲ得タルモノニシテ一朝不測ノ不幸ニ遭遇シ勞働ヲナスノ必要ヲ生スルニ至リタルモノアルヘク猶其他ニモ斯カル宣言ニ依リテ却テ紛糾ヲ招クノ虞アル場合アリ彼ノ米國在留日本人ニシテ布哇諸島、「ブリチッシュ・コロンビヤ」及ヒ墨西哥行キノ旅券ヲ有シ千九百七年三月十四日附行政命令發布前ニ於テ入米シタルモノ多數アレハナリ亦貴大使ノ覺書中ニアル提議ハ前議ヲ撤回スルモノニアラス從テ右様ノ場合ト關聯スヘキモノナラサルコトハ全ク明瞭ナリ然ルニ該命令發布後ニ生起セル事實竝ニ爾後新聞紙上ニ多數ノ潛入者アリタルモノノ如ク非常ニ誇大ナル記事ノ記載セラレタルカ爲メ自然入米ノ際何等法令ニ違反シタルコトナキ勞働者ト他ニ同様ノ旅券ヲ有スルモ行政命令ト行政規則ノ制禁ニ違犯シタル一層少數ノ輩トノ兩者ヲ混合シ爲ニ紛雜ヲ生シタルハ事實ナリ帝國政府ハ右様ノ結果トシテ紛雜ノ生起シタルコトヲ深く遺憾トスル處ナルモ假令政府カ其旅券中或ルモノヲ無効トナスノ權力ヲ有シタリトスルモ猶之レヲ無効トナスノ宣言ヲナスニ於テハ現在ノ事態ヲ匡濟スルニアラスシテ却テ一層紛雜ヲ増長セシムルニ至ルヘキヲ懸念ス左レハ目下考案中ニ係ルモノ及ヒ現ニ執行中ノ豫防方法ヲ實施スルニ於テハ右同様ナル苦情ノ生起スルハ最モ稀有ナルヘキヲ豫期スルノ理由ヲ有シ亦其他ノ豫防

手段トシテハ旅券發給方ノ制限ニ違反シタル場合ヲ知覺スル場合ニハ行政官廳ハ右様詐欺ヲナシタル者ヨリ旅券ノ請求アルモ再ヒ下付スルコトナク猶其者ノ父母妻子ニ對シ同様旅券下付ヲ禁止スヘキ目的ニシテ之亦唯一ノ實行シ得ヘキ制裁方法ナレハ之ヲ他ノ制裁方法ト同時ニ實施セハ詐欺手段ヲ防遏スルニ於テ有效ナルコトヲ確證スルニ至ルヘシ

右様ノ理由ナレハ旅券下付願ノ際ニ於テ表明セシ處ノ事實ニ違背スル行動ハ恰モ條約其他ニ據テ確保セラレタル權利ヲ喪失スルト同様ナルヘシトハ帝國政府ノ前以テ言明スルヲ躊躇スルニ於テ十分ノ根據ヲ有スト確信スル處ナリ旅券ナルモノハ從來説明シタルカ如ク單ニ日本人タル所有者ニ對シ上記ノ權利ヲ附與セラレタシトノ日本政府ノ要求ヲ言明スルニ過キサレハナリ林伯爵ハ在外國米國市民ノ登錄ニ關スル行政命令寫ニ關シ謝意ヲ表シ米國政府カ右協議ニ關シ特ニ御注意ノ廉ヲモ了承シタリ帝國政府ハ本問題ヲ研究ノ上合衆國在留ノ日本人ニ對シ場合ノ許ス限リ貴大使ノ書翰ニ記載セラレアルモノト幾ト同様ノ登錄方法制定ノ見込ナリ尤右實施上困難ナル點ニ對シ既ニ注意ヲ喚起セルコトアリシモ之亦排除セサルヘカラス其困難ノ所以ハ例ヘハ合衆國ニ於ケル帝國領事館管轄區域ノ廣漠ナルコト日本人ノ居住地ノ四方ニ散在スルコト就中勞働者ノ住所不定ノ習慣ヲ帶フルコト及ヒ右登錄法ヲシテ義務的ナラシムルニ於テ何等法律上ノ制裁ナキコト等ト

ス尤モ後段ノ故障ノ如キハ不登錄者ニ對シテハ許否自在ナル或ル權利ヲ拒否スルモノトセハ之ヲ排除シ得ヘシト雖右等ノ帳簿ヲ制定シ之ヲ保存スルコトハ最モ便宜ナル場合ト雖モ尙其ノ執行上困難ナルヘシ亦帝國政府ヲシテ最初右御協議ニ應スルコト能ハサルヘシトノ傾意ヲ起サシメタルモノハ獨リ前述ノ故障アルノミナラス右方法ヲ採用スル場合ニハ日本臣民ニシテ登錄セラレサルモノハ假令合衆國內ニ居住ノ權利ヲ有スルニモ拘ハラス其ノ權利ヲ喪失セシモノト自認セルト同様ノモノト認定サレサルヤ又少ナクトモ本人等ハ之レカ爲メ手數ト費用ニ堪フルコト能ハサルニ至ルヘキ懸念アリ之レヲ反言セハ帝國政府ハ其主義トシテ過去及ヒ現在ニ於テ右様ノ日本人ニ對シ既ニ種々ノ義務ヲ負擔セシメタル以上ニ猶他ノ義務ヲ加擔セシムルコトヲ好マサルノミナラス或ハ之レカ爲メ容易ニ事實ヲ假定セラレ却テ無辜ノ災害ヲ被ルコトアルヘシ尤モ同時ニ帝國政府ハ本件ハ勿論移民ニ關スル都テ他ノ事項ニ於テモ詐欺手段ヲ豫防シ又過テ違反者ト看做サレタルモノノ權利ヲ擁護スル上ニ於テ兩國政府ノ官吏ノ互ニ腹藏ナク協同一致スルノ價值アルコトヲ十分確認スル處ナリ合衆國政府カ爰ニ注意ヲ喚起シタル處置ニ對シ特ニ重要視セラルルコトハ閣下ノ御說示ニ於テ承認スル處ニシテ貴大使ノ附言スル處ノモノ亦誠實融和の精神ナルコトハ我政府ノ大ニ賞讃スル處ナルニヨリ從テ前記ノ通り其意見ヲ變更シタル次第ニシテ登錄法ノ如キモ實

施シ得ヘキ次第速カニ制定スヘク尤モ右登録法ヲシテ出來得ヘキ丈ケ完全ナラシムルコトニ於テ全力ヲ注クモ右登録ヲ受ケサルヲ以テ居住權喪失ノ理由ヲ構成セルモノト我政府ハ思惟セサルヘシ

第六項ノ御協議ニ關シテハ帝國政府ハ汽船會社ヲシテ不合格移民ヲ送還セシムルコトニ於テハ合衆國政府ト協力スヘキモ日本法律中ニ合衆國ニテ現行中ノモノト同様其執行權ヲ行政官廳ニ附與スルモノノ如キモノナク且今日ノ場合右様ノ方法ヲシテ議會ヲ通過セシメントスルヘカラサル點アリ從テ本問題ニ對シ別個ノ考案ヲ與フルコトハ理論上並ニ相互希望スヘキモノナルコトヲ信用スルニ足ルヘシ又既ニ説明セルカ如ク布哇島行キ日本移民ハ幾ト全然同島カ今日ノ如キ富ト財産ノ高度ニ達シタル實業上ノ需要ニ應ジテ發達スルモノニシテ之ヲ反言セハ需要供給ノ働作ノ結果ナリ帝國政府ハ如斯満足ニ繼承シ來リタル相互の利益ノ價值ヲ十分承認スル以上ハ布哇島行キ移民ハ今後同一ノ方法ニ於テ進行スヘキ外ニ希望ヲ有セス尤モ移民ハ如何ナル場合ニ於テモ自然ニシテ且正當ナル需要ニ超過セシメサルヘシ移民ノ超過ハ他ノ者ニ於ケルヨリハ寧ロ移民其ノ者ノ利益ニ對シ有害ナルハ事實ノ自證スル處ナレハナリ

六、紳士協約ノ實效問題

一九〇八年六月十二日在米高平大使大統領ト面謁ノ節大統領ハ移民問題ニ言及シ紳士協約ノ協定アリタル後ニ於テモ尙多數ノ日本勞働者ノ渡來アリ其中ノ大部分ハ定住農夫ト稱スルモ實際勞働者ノ階級ニ屬スルコトヲ指シ日本政府ニ於テ旅券發給ニ關シ更ニ嚴重ナル取締ヲ爲ス必要アリト述ヘタルカ之ニ對シテ六月十九日高平大使ハ政府ノ訓令ニ基キ統計の數字ヲ舉ケ次ノ趣旨ヲ回答説明セリ

(一) 帝國政府ハ曩ニ聲明シタル主旨ニ依リ地方長官ニ嚴訓シテ渡航ノ制限ヲ實行セシメツツアルカ尙一層有效ニ之ヲ勵行スル爲渡米者ニ對スル旅券下付ノ當否ニ付外務省ニ於テ直接裁斷ヲ行フコトトシ一九〇八年四月ヨリ修學商用等移民(勞働者)以外ノ者トシテ旅券出願アル時ハ一々地方長官ヨリ外務省ニ協議セシムルコトトセリ(此結果ハ五月以後ノ統計ニ現ハルヘシ)

(二) 移民渡航許可ノ範圍ハ領事發給ノ在留證明書ヲ有スル再渡航者該證明ヲ有スル米國在留者ノ父母妻子及外務省ニ於テ特ニ承認ヲ與ヘタル定住農夫ニ限定セルヲ以テ地方長官ノ取扱ニ錯誤アルカ如キハ稀有ノコトナルモ尙其間些ノ遺漏ナキヲ期スル爲移民(勞働者)ノ渡航ニ付テモ五月下旬ヨリ旅券下付前外務省ニ協議セシムルコトトセリ

在本邦米國大使「オブライエン」ハ六月末其賜暇歸國前右外務次官ニ對シ移民取締ノ結果カ極メ

テ不満足ナルコトヲ談話シ更ニ六月二十八日附公文ヲ以テ移民制限ニ關スル彼我ノ取極ニ基ク實績甚タ不満足ニシテ此狀態ノ儘ニ於テハ終ニ移民制限法ノ成立ヲ阻止スルコト至難ナル旨ヲ附加セリ（附屬書第十八號）

依テ帝國政府ハ七月一日覺書ヲ以テ統計ヲ根據トシテ前顯ノ事情ヲ縷說シ米國側ノ不安ヲ排除スルニ努力スルト共ニ八月四日在本邦代理大使「ヂエー」宛公文ヲ以テ右「オブライエン」大使書面中ニ見エタル再渡航者呼寄家族ニ對スル旅券下付等現行協定ニ付テノ誤解ヲ匡正スルニ努メタリ（附屬書第十九號）

第四章 一九〇八年紳士協約ニヨル對米移民制限ノ在米

日本移民ニ及ホセル影響

一九〇八年紳士協約成立シ對米移民制限實施以後ニ於ケル我移民去來ノ趨勢ヲ見ルニ歸朝者ノ數ハ常ニ渡米者ノ數ヲ超ユルコト著シク之カ爲單ニ我勞働者ノ缺乏ヲ告クルノ外ニ在米本邦人ノ正當ナル企業ニ對シ打撃ヲ加ヘ其實利ニ影響ヲ與フルコト尠カラサルヤニ傳ヘラレタルカ爲帝國政府ニ於テハ本件影響ノ程度範圍等一應調査ノ必要アリト認メ一九一一年五月三日小村外務大臣ハ在米各領事官ヲシテ各其管轄區域内ノ狀態ノ真相ヲ看取スルニ遺憾ナキ様充分ニ注意調査ノ上報告スヘキ旨訓令セリ右訓令ニヨリ各領事官ヨリ送達越タル報告ハ當時ニ於ケル在留本邦移民ノ生活狀態ヲ知ル上ニ好個ノ資料ナリト認メラルルヲ以テ左ニ之ヲ收録スヘシ

第一節 加州地方ノ日本移民ニ及ホセル紳士協約ノ影響

紳士協約ニヨル移民制限力加州ニ於ケル日本移民ニ及ホセル影響ニ關シ一九一一年十月二十三日附林臨時外務大臣宛在桑港近藤總領事代理ノ報告セル所大要左ノ通